

いわき市立
美術館年報

令和 6 年度

目 次

沿 革	2
展覧会事業	3
常設展	3
企画展	8
開館 40 周年記念 秘密の花園ーいわき市立美術館所蔵品展 …	8
フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン…	13
new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった …	20
牛腸茂雄 写真展 “生きている” ということの証 …	31
小企画展	35
いわき市小・中学生版画展プラスー版画の力 ……	35
ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美 …	37
共催展	38
第 54 回いわき市民美術展覧会 ……………	38
普及事業	41
移動美術館	41
講演会	41
美術講座	42
ギャラリートーク	42
ワークショップ	43
実技講座	44
公開制作	44
映像鑑賞会	45
コンサート&パフォーマンス	45
出版	46
実技講習室の公開	46
図書室の公開	47
実習生の受け入れ	47
バーチャルミュージアム	47
共催事業	47
所蔵資料	50
美術作品収蔵状況	50
美術作品貸出状況	51
資料の購入等に関する状況	51
令和 6 年度新収蔵作品	52
管理・運営	56
美術館関係法規 いわき市立美術館条例	56
美術館関係法規 いわき市立美術館管理規則	58
利用者一覧 事業経過報告	62
令和 6 年度美術館費当初予算	64
名簿	65
施設案内	66
利用案内	67

沿革

昭和53年 2月	いわき市民ギャラリー主催による「ヘンリー・ムーア展」が開催され盛況をおさめたことが市民の反響をよび、市立美術館建設の機運が高まる
昭和53年 6月	市総合計画の中で、前期に美術館建設計画を盛り込む
昭和54年 5月	美術館建設基本構想委員会を設置、委員 6 人を委嘱
昭和54年 8月	同委員会より美術館の基本構想について答申
昭和54年11月	基本構想を具体的に検討するため、市民20名による美術館建設審議会を設置
昭和55年 3月	美術品選定評価委員会を設置、委員 5 名を委嘱
昭和55年 9月	美術館・博物館建設準備室を設置
昭和55年 9月	美術館建設審議会から美術館建設について答申
昭和55年10月	基本設計は、指名競争設計方式で行うことを決める
昭和56年 1月	美術館建設基本設計審議会を設置、委員14名を委嘱
昭和56年 1月	同委員会佐藤武夫設計事務所の案を選定
昭和56年 9月	美術館実施計画書の提出
昭和56年12月	市議会で美術館工事請負契約を決議
昭和56年12月	建設工事着工
昭和58年11月	竣工
昭和58年12月	市議会において美術館条例を決議
昭和59年 4月	美術館組織発足
昭和59年 4月28日	開館
昭和59年 4月29日	一般公開
昭和59年10月10日	いわき市立美術館友の会発足
平成 3年 4月	常設展の観覧料を祝日無料とする
平成 4年 4月	企画展の観覧をもって常設展観覧無料とする 7月、8月の金曜日の夜間開館開始
平成 4年10月	美術館協議会より「いわき市立美術館振興策」が提出される
平成 5年 1月	毎月第2土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成 7年 4月	毎月第2、第4土曜日を小中学生の常設展の観覧無料とする
平成12年 3月	美術館協議会より「いわき市立美術館第2次振興策」が提出される
平成14年 4月	障害者、高齢者の観覧を無料とする。また、児童生徒などが土曜日、日曜日に観覧する場合、および学校の教育活動などで観覧する場合の観覧料を無料とする
平成15年 9月～12月	大規模改修工事（休館）
平成19年 3月～ 7月	アスベスト除去工事（休館）
平成23年 3月11日	東日本大震災
平成25年 9月～平成26年11月	空気調和設備改修工事（休館）
平成28年 4月	行政組織の改革等に伴い文化スポーツ業務が市長部局に移管。美術館事業は補助執行により市長部局文化振興課の所管となる
令和 4年 3月～ 4月	エレベーター改修工事（休館）
令和 4年 4月	行政組織改正に伴い、文化交流課の所管となる



美術館外観

令和6年度 常設展（前期・後期）

前期は当館コレクションによる企画展「開館40周年記念 秘密の花園—いわき市立美術館所蔵品展」の第8章として「ホームカミング」と題し、河口龍夫、佐藤時啓、松田松雄、緑川宏樹らによるいわき市や当館とゆかりのある作品を展示した。小企画は前期Ⅰでは「ホームカミング—海、街、人」と題し、若松光一郎や鈴木新夫ら地元作家によるいわきの風景や人物の作品を紹介した。前期Ⅱでは「モダン・ライフ」と題し、戦後の現代的な生活・日常・社会を題材としたパトリック・コールフィールド、アンソニー・グリーン、アンディー・ウォーホルらの作品を展示した。

後期もまた当館の開館40周年にちなんで「新

しい表現を求めて—1980-90年代のアート・シーン」と題し、1980年代に頭角を現した岡崎乾二郎、辰野登恵子、森村泰昌、中村一美らの作品を展示することで開館当初の日本のアート・シーンを振り返る展示とした。小企画は後期Ⅰでは「写真とアート」と題し、小本章、上田薫、野田哲也らの作品を展示することで、現代美術における写真を活用した表現や絵画との関係性を問い直すような表現などを紹介した。後期Ⅱでは『「形」から見る現代美術』と題し、エルズワース・ケリー、アンリ・マティス、瀬田哲司らの作品を展示し、作品に表れるさまざまな「形」をとおして現代美術の世界に触れる機会とした。

会 期 前期Ⅰ 2024年 4月17日(水)～2024年 6月 2日(日)
 前期Ⅱ 2024年 6月 4日(火)～2024年 9月29日(日)
 後期Ⅰ 2024年10月 1日(火)～2025年 1月13日(月・祝)
 後期Ⅱ 2025年 1月15日(水)～2025年 4月20日(日)

会 場 いわき市立美術館 常設展示室

主 催 いわき市立美術館



前期 ホームカミング



後期Ⅱ 「形」から見る現代美術

作品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
令和6年度常設展 前期Ⅰ (2024年4月17日～2024年6月2日)					
■ホームカミング					
1	マーク・ボイル	いわき風景―足跡、割れた泥、石とサンダルのある	1982	彩色ファイバーグラス	208.5 × 365.5
2	河口龍夫	DARK BOX 1998	1998	鉄、闇	35.0 × 60.0 × 37.0
3	佐藤時啓	光―呼吸 四倉 7	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
4	佐藤時啓	光―呼吸 四倉 8	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
5	佐藤時啓	光―呼吸 薄磯	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
6	佐藤時啓	光―呼吸 波立 1	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
7	佐藤時啓	光―呼吸 波立 2	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
8	野田哲也	日記 1982年2月15日 いわきにて	1982	シルクスクリーン、木版・紙	44.5 × 64.2
9	松田松雄	風景 (民-A)	1977	油彩・カンヴァス	162.0 × 162.0
10	松田松雄	風景 (民-C)	1977	油彩・カンヴァス	162.0 × 162.0
11	緑川宏樹	はざるQ体 (M氏の系図)	1975 (1985再制作)	陶	直径 11.0 × 18.0
12	鈴木新夫	ゴンドラ	1966	油彩・カンヴァス	130.5 × 162.3
13	若松光一郎	大地の歌	1985	墨、カゼインカラー、油彩、和紙・カンヴァス (3点組)	227.0 × (162.0+182.0+162.0)
14	田子英長	着陸地点	1985	油彩・カンヴァス	259.0 × 193.0
15	稲川敏之	蝕の刻	1987	油彩・カンヴァス	227.3 × 181.8
16	田口安男	手のうら焰	1980	テンペラ、油彩・カンヴァス	193.0 × 161.5
17	鈴木芳子	ある一族の肖像	1976	顔料・紙	196.1 × 291.0
■ホームカミング―海、街、人					
18	佐藤忠良	常磐の大工	1956	セメント	21.5 × 14.5 × 23.0
19	佐藤忠良	古河炭鉱・ズリ山	1956	鉛筆、コンテ・紙	29.0 × 37.5
20	朝倉摂	古河好間	1956	鉛筆・紙	40.9 × 32.5
21	西常雄	カンテラ	1956	サインペン・紙	40.8 × 31.7
22	鳥居敏文	切り羽に向う	1956	鉛筆、コンテ・紙	35.7 × 24.5
23	中谷泰	炭坑にて 5	1956	鉛筆、水彩・紙	32.0 × 40.8
24	吉井忠	イワキ炭坑 (昼)	1956	鉛筆・紙	25.0 × 30.0
25	森芳雄	坑内にて・切羽	1956	鉛筆・紙	20.3 × 27.8
26	鈴木新夫	洗炭する女	1955-56	鉛筆、水彩、コンテ・紙	35.2 × 25.1
27	鈴木新夫	炭坑・洗濯物のある風景	1955-56	水彩、パステル、コンテ・紙	36.0 × 26.5
28	若松光一郎	五月のヤマ	1957	水彩、鉛筆・紙	32.0 × 40.7
29	遠藤正三	洗浄筒のある風景	1954	油彩・カンヴァス	80.3 × 100.0
30	伊沢賢一	炭鉱住宅	1958	鉛筆、水彩・紙	53.0 × 73.0
31	中村亨司	炭鉱の想い出	1973	油彩・カンヴァス	145.5 × 97.0
32	北郷悟	ark	1980	テラコッタ	60.0 × 80.0 × 60.0
33	坂本勇	錦秋阿弥陀堂	1972 (2004刷り)	木版・紙	59.2 × 74.5
34	阿部廣司	漁港	1976	水彩・紙	130.0 × 89.0
35	阿部セキ	市場の一隅	1978	油彩・カンヴァス	113.8 × 147.0
36	鈴木邦夫	ヨットのある風景 2 '75	1975	油彩・カンヴァス	130.5 × 162.0
37	塩田清忠	ヨットハーバー 81	1981	油彩・カンヴァス	112.0 × 145.0
38	北郷喜三郎	廃 (老船の肖像)	1984	油彩・カンヴァス	194.0 × 112.0
39	坂本孝正	アメリカから来た少女	不詳	油彩・カンヴァス	61.0 × 50.5
40	坂本孝正	赤ちゃん	1935頃	油彩・カンヴァス	54.0 × 45.0

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
41	大森義夫	静物	1926	油彩・板	31.8 × 41.0
42	鈴木新夫	おさげの少女	1978	油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0
43	若松光一郎	自画像	1930 年代	油彩・板	33.0 × 24.0
44	若松光一郎	父	1930 年代	油彩・板	33.0 × 24.0
45	若松光一郎	風景	1945	油彩・板	24.0 × 33.0
46	若松光一郎	素直 1 歳	1949	油彩・板	33.0 × 23.7
47	若松光一郎	素直 3 歳	1952 頃	油彩・板	33.0 × 23.8
48	若松光一郎	素直 4 歳	1953	油彩・ファイバーボード	27.4 × 22.0

令和 6 年度常設展 前期 II (2024 年 6 月 4 日～2024 年 9 月 29 日)

■ホームカミング

1	松田松雄	風景 (民-A)	1977	油彩・カンヴァス	162.0 × 162.0
2	松田松雄	風景 (民-C)	1977	油彩・カンヴァス	162.0 × 162.0
3	鈴木新夫	ゴンドラ	1966	油彩・カンヴァス	130.5 × 162.3
4	鈴木芳子	ある一族の肖像	1976	顔料・紙	196.1 × 291.0
5	稲川敏之	蝕の刻	1987	油彩・カンヴァス	227.3 × 181.8
6	田口安男	手のうら焰	1980	テンペラ、油彩・カンヴァス	193.0 × 161.5
7	田子英長	着陸地点	1985	油彩・カンヴァス	259.0 × 193.0
8	緑川宏樹	はぜる Q 体 (M 氏の系図)	1975 (1985 再制作)	陶	直径 11.0 × 18.0
9	佐藤時啓	光一呼吸 水石 1	1996	リスフィルム、アルミニウム板、 蛍光灯、電線	94.0 × 117.0
10	佐藤時啓	光一呼吸 水石 2	1996	リスフィルム、アルミニウム板、 蛍光灯、電線	94.0 × 117.0
11	佐藤時啓	光一呼吸 水石 3	1996	リスフィルム、アルミニウム板、 蛍光灯、電線	94.0 × 117.0
12	佐藤時啓	光一呼吸 水石 4	1996	リスフィルム、アルミニウム板、 蛍光灯、電線	94.0 × 117.0
13	河口龍夫	DARK BOX 1998	1998	鉄、闇	35.0 × 60.0 × 37.0
14	マーク・ボイル	いわき風景 一足跡、割れた泥、石とサンダルのある	1982	彩色ファイバーグラス	208.5 × 365.5
15	若松光一郎	大地の歌	1985	墨、カゼインカラー、油彩、 和紙・カンヴァス (3 点組)	左:227.0 × 162.0 中:227.0 × 182.0 右:227.0 × 162.0

■モダン・ライフ

16	パトリック・コールフィールド	浴室の鏡	1968	シルクスクリーン・紙	71.1 × 93.2
17	パトリック・コールフィールド	光沢のある陶器	1976	シルクスクリーン・紙	54.0 × 76.2
18	パトリック・コールフィールド	ピクニック・セット	1978	シルクスクリーン・紙	91.5 × 86.0
19	リチャード・ハミルトン	インテリア	1964-65	シルクスクリーン・紙	49.0 × 63.6
20	トム・ウェッセルマン	静物	1965	シルクスクリーン・紙	73.5 × 96.3
21	アラン・ダーカンジェロ	プロポジション #5	1966	アクリル彩・カンヴァス	153.0 × 153.0
22	レオナルド・クレモニーニ	普通列車	1965	油彩、アルミニウム板・カンヴァス	73.5 × 144.3
23	アンソニー・グリーン	ブラックルシャム・ベイの思い出	1975	油彩・板	208.0 × 106.5
24	アンソニー・グリーン	自転車競技選手	1976	油彩・板	138.0 × 305.0
25	デイヴィッド・ホックニー	線で描かれたリトグラフの水	1978	リトグラフ・紙	74.0 × 86.0
26	デイヴィッド・ホックニー	線とクレヨンと二色の薄いブルーの染料で 描かれたリトグラフの水	1978-80	リトグラフ・紙	74.0 × 86.0
27	デイヴィッド・ホックニー	バラード	1982	シルクスクリーン・紙	203.0 × 104.0
28	デイヴィッド・ホックニー	バラード	1981	オフセットプリント・紙	203.0 × 104.0
29	メル・ラモス	作品	1965	シルクスクリーン・紙	101.2 × 76.0
30	ジェームズ・ローゼンクイスト	愛のために	1965	シルクスクリーン・紙	90.0 × 70.0
31	アンディー・ウォーホル	ジャッキー	1965	シルクスクリーン・紙	101.4 × 76.2

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
32	池田満寿夫	ヴォーグから来た女	1966	ドライポイント、ルーレット、 ビュラン・紙	40.5 × 44.2

令和 6 年度常設展 後期Ⅰ (2024 年 10 月 1 日～2025 年 1 月 13 日)

■新しい表現を求めてー1980-90 年代のアート・シーン

1	岡崎乾二郎	あかさかみつけ #10	1987	ポリプロピレン、ポリエチレン、 アクリル彩、顔料	27.5 × 25.0 × 17.5
2	岡崎乾二郎	あかさかみつけ #20	1987	ポリプロピレン、ポリエチレン、 アクリル彩、顔料	27.5 × 25.0 × 17.5
3	根岸芳郎	84-8-4	1984	アクリル彩・カンヴァス	180.0 × 232.0
4	辰野登恵子	WORK 84-P-8	1984	アクリル彩・カンヴァス	259.0 × 194.0
5	吉澤美香	は -12	1990	工業用インク・ポリプロピレン	201.0 × 403.0
6	堀浩哉	ローマで鳥を見た -6	1991	岩 絵 具、ア ク リ ル 彩、墨・ 和紙、カンヴァス	227.3 × 364.0
7	松本陽子	自然のなかの形象	1990	アクリル彩・カンヴァス	187.0 × 227.0
8	小林正人	画室 = キャンパス	1988	油彩・カンヴァス	195.0 × 165.0
9	森村泰昌	美術史の娘 王女 B	1990	カラー写真、透明メディウム	210.0 × 160.0
10	川俣正	コンストラクション・サイト・プロジェクト「ノヴェ・ デ・ジュルホ・カサバーヴァ」フォトドキュメント	1994	ゼラチンシルバープリント・パネル (3 点組中 2 点)	62.0 × 87.0
11	増田聡子	KINA-Siegen	1989	油彩、アクリル彩、リネン・パネル	220.0 × 330.0
12	中村一美	聖	1987	油彩・カンヴァス	260.0 × 540.0
13	黒川弘毅	ゴーレム 21	1986	ブロンズ	59.0 × 47.5 × 50.5
14	黒川弘毅	ゴーレム 22	1986	ブロンズ	52.5 × 50.0 × 30.0
15	黒川弘毅	ゴーレム 23	1986	ブロンズ	40.0 × 41.0 × 18.0
16	黒川弘毅	ゴーレム 24	1987-88	ブロンズ	36.0 × 84.0 × 51.0
17	黒川弘毅	ゴーレム 25	1987-88	ブロンズ	37.0 × 88.0 × 48.0

■写真とアート

18	杉本博司	陰翳礼讃、IN PRAISE OF SHADOW (5)	2000	リトグラフ・紙	58.0 × 45.8
19	横尾忠則	葬列 II	1985 (初出 1969)	シルクスクリーン・アクリル板	74.5 × 107.2
20	木村光佑	現在位置 フレーミング A	1971	リトグラフ、シルクスクリーン・紙	75.5 × 100.0
21	木村光佑	現在位置 フレーミング B	1971	リトグラフ、シルクスクリーン・紙	75.5 × 100.0
22	小本章	C-83-C	1983	チバカラーコピー・紙	30.0 × 42.0
23	小本章	SEEING 81-11	1990	チバカラープリント・紙	100.0 × 73.0
24	ゲルハルト・リヒター	カナリア諸島風景 II-a	1971	フォトグラヴェール・紙	54.5 × 63.6
25	ゲルハルト・リヒター	カナリア諸島風景 II-b	1971	フォトグラヴェール・紙	54.5 × 63.6
26	上田薫	あわ F	1979	油彩、アクリル彩・カンヴァス	130.0 × 162.0
27	上田薫	シャボン玉 A	1979	油彩、アクリル彩・カンヴァス	130.5 × 161.5
28	鳴剛	無題 B	1981	アクリル彩・カンヴァス	228.0 × 182.0
29	佐藤時啓	Breath-Graph #25	1990	写真、透明メディウム	218.0 × 182.0
30	池田良二	CIRCUMSTANCES	1988	銅版・紙	96.0 × 75.0
31	池田良二	REBORN DOOR	1988	銅版・紙	96.0 × 75.0
32	郭徳俊	クリントン II と郭	1997	シルクスクリーン・紙	51.5 × 37.0
33	郭徳俊	ブッシュ 2001 と郭	2001	シルクスクリーン・紙	74.0 × 54.5
34	野田哲也	日記 1970 年 5 月 3 日 ニューヨーク	1970	シルクスクリーン、木版・紙	44.8 × 44.8
35	野田哲也	日記 1973 年 10 月 25 日	1973	シルクスクリーン、木版・紙	50.6 × 71.3

令和 6 年度常設展 後期Ⅱ (2025 年 1 月 15 日～2025 年 4 月 20 日)

■新しい表現を求めてー1980-90 年代のアート・シーン

1	岡崎乾二郎	あかさかみつけ #20	1987	ポリプロピレン、ポリエチレン、 アクリル彩、顔料	27.5 × 25.0 × 17.5
2	岡崎乾二郎	あかさかみつけ #26	1989	ポリプロピレン、ポリエチレン、 アクリル彩、顔料	27.5 × 25.0 × 17.5

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
3	根岸芳郎	84-8-4	1984	アクリル彩・カンヴァス	180.0×232.0
4	辰野登恵子	WORK 84-P-8	1984	アクリル彩・カンヴァス	259.0×194.0
5	吉澤美香	は-12	1990	工業用インク・ポリプロピレン	201.0×403.0
6	堀浩哉	ローマで鳥を見た -6	1991	岩絵具、アクリル彩、墨・和紙、カンヴァス	227.3×364.0
7	松本陽子	自然のなかの形象	1990	アクリル彩・カンヴァス	187.0×227.0
8	小林正人	画室＝キャンパス	1988	油彩・カンヴァス	195.0×165.0
9	森村泰昌	批評とその愛人 A	1990	カラー写真、透明メディウム	198.0×242.0
10	宮島達男	Counter History	1989	インク、スタンプ、カラーペン・紙	63.0×139.0
11	増田聡子	KINA-Siegen	1989	油彩、アクリル彩、リネン・パネル	220.0×330.0
12	中村一美	聖	1987	油彩・カンヴァス	260.0×540.0
13	黒川弘毅	ゴーレム 21	1986	ブロンズ	59.0×47.5×50.5
14	黒川弘毅	ゴーレム 22	1986	ブロンズ	52.5×50.0×30.0
15	黒川弘毅	ゴーレム 23	1986	ブロンズ	40.0×41.0×18.0
16	黒川弘毅	ゴーレム 24	1987-88	ブロンズ	36.0×84.0×51.0
17	黒川弘毅	ゴーレム 25	1987-88	ブロンズ	37.0×88.0×48.0

■「形」から見る現代美術

18	ナイジェル・ホール	海の貝殻	1980	彩色アルミニウム	199.0×133.0×69.0
19	エルズワース・ケリー	イエロー (版画集『27のカラーリトグラフ』より)	1964-65	シルクスクリーン・紙	89.5×60.0
20	エルズワース・ケリー	オレンジの上にブルー (版画集『27のカラーリトグラフ』より)	1964-65	シルクスクリーン・紙	89.5×60.0
21	エルズワース・ケリー	グリーンの上にブルー (版画集『27のカラーリトグラフ』より)	1964-65	シルクスクリーン・紙	89.5×60.0
22	小田 襄	円と方形—8つの色 橙	1979	スクリーンプリント、 手彩色 (3色)・紙	65.0×50.0
23	小田 襄	円と方形—8つの色 赤	1980	スクリーンプリント、 手彩色 (8色)・紙	65.0×50.0
24	渡辺豊重	かたち No. 702	1970	シルクスクリーン・紙	50.0×34.5
25	渡辺豊重	むらさきの中の白とオレンジ (シャンソン)	1978	シルクスクリーン・紙	41.7×56.7
26	渡辺豊重	ピンピンピンそして角のとれた四角とお友達 (ピクニック No. 8405)	1984	シルクスクリーン・紙	42.0×59.5
27	ジョアン・ミロ	貝	1969	リトグラフ・紙	77.0×112.5
28	フランク・ステラ	グァダループ島のカラカラ	1980	ミクストメディア・紙	155.5×224.0
29	アンリ・マティス	版画集『ジャズ』より 2 サーカス	1947	ステンシル・紙	46.0×55.0
30	アンリ・マティス	版画集『ジャズ』より 15 ナイフ投げ	1947	ステンシル・紙	41.0×65.0
31	パブロ・ピカソ	飾り帽子の女の顔	1962	リノカット・紙	63.0×53.0
32	パブロ・ピカソ	ランプの下の子物	1962	リノカット・紙	64.0×53.0
33	パトリック・コルフフィールド	茶色の水差し	1982	シルクスクリーン・紙	76.9×57.1
34	篠原有司男	鏡の中の花魁	1969	シルクスクリーン・紙	60.5×50.0
35	齋藤隆	樹 (天)	1998	墨・和紙	60.0×90.0
36	ジャスパー・ジョーンズ	色数字	1970	リトグラフ・紙	96.5×78.5
37	ジャスパー・ジョーンズ	色数字	1970	リトグラフ・紙	96.5×78.5
38	瀬田哲司	EVOLUTION	1988	アルミニウム	200.0×200.0×30.0

開館 40 周年記念

秘密の花園－いわき市立美術館所蔵品展

1984年に開館した当館の開館40周年を記念し、約130点の所蔵作品を展示した展覧会。時代や様式を超えた八つのテーマで会場を構成し、現代美術への導入となることを図った。特に川俣正の《コンストラクション・サイト・プロジェクト「ノヴェ・デ・ジュルホ・カサパーヴァ」マケット》(1994年)や蔡國強の《Projects for Extraterrestrials》(1994年)といった常設展示室では展示できない超大型の作品や、1階ロビーを使った立体作品の展示、常設展示室でのいわきゆかりの作品の紹介など全館を用いてコレクションの魅力を伝える内容とした。

アンケートなどによると上記のような展示機

会の少ない作品を鑑賞できたことへの喜びや当館の持つ戦後美術のコレクションの豊かさに驚く声も見られた。一方で現代美術を中心とした展示から難解さを覚える感想も見られ、解説や鑑賞ガイドなどを用いてよりコレクションに親しみやすくすることが課題となった。

関連事業として、現代美術研究者の布施英利氏、元当館学芸員で茨城県天心記念五浦美術館館長の小泉晋弥氏による講演会、当館学芸員7名による美術講座、地元音楽家やフラメンコ・グループによる3回にわたるコンサート&パフォーマンスを実施した。

会 期 2024年4月20日(土)～ 6月2日(日)

会 場 いわき市立美術館 企画展示室1、2、常設展示室およびロビー

主 催 いわき市立美術館

図 録 『開館40周年記念 秘密の花園－いわき市立美術館所蔵品展』
いわき市立美術館、2024年



●秘密の花園—いわき市立美術館所蔵品展 出品リスト

No	作者名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
■第1章 秘密の花園					
1	アンディ・ウォーホル	花	1970	シルクスクリーン・紙 (10点組)	各 91.5 × 91.5
2	ジム・ダイン	森の中の二つのハート	1981	シルクスクリーン、リトグラフ・紙	91.3 × 152.6
3	アンソニー・グリーン	パッション II	1981	油彩・ボード、カンヴァス	160.0 × 160.0
4	野中ユリ	大洪水の後 (版画集『野中ユリ 彩色版画 イリュミナシオン』より)	1975	リトグラフ、コロタイプ・紙	55.0 × 41.2
5	野中ユリ	神秘 (版画集『野中ユリ 彩色版画 イリュミナシオン』より)	1975	リトグラフ、コロタイプ・紙	57.0 × 41.2
6	野中ユリ	花々 (版画集『野中ユリ 彩色版画 イリュミナシオン』より)	1975	リトグラフ、コロタイプ・紙	55.0 × 41.5
7	野中ユリ	野蛮 (版画集『野中ユリ 彩色版画 イリュミナシオン』より)	1975	リトグラフ、コロタイプ・紙	55.0 × 43.0
8	戸谷成雄	森	1988-1991	木、灰、アクリル彩	213.0 × 490.0 × 30.0
9	土谷武	水—循環するもの	1994	軟鋼	245.0 × 150.0 × 170.0
10	土谷武	蟬 VII-a	1982	コルテン鋼	12.5 × 41.0 × 20.0
11	伊藤公象	砂・土・雰囲気	1985	砂、パラジウム、ガラス	直径 400
■第2章 自然回帰					
12	ジョン・ミッチェル	紫色の木	1964	油彩・カンヴァス	161.8 × 114.0
13	丸山直文	GLAY	1992	アクリル彩・綿布	183.0 × 314.0
14	河口龍夫	太陽と描いた点	2011	太陽光線、紙	19.2 × 27.1
15	河口龍夫	太陽と描いた 14 の点	2011	太陽光線、紙	19.2 × 27.2
16	河口龍夫	太陽と描いた線	2011	太陽光線、紙	19.8 × 27.3
17	河口龍夫	5億年前の三葉虫から	2011	鉛筆・和紙、紙	12.5 × 18.2
18	河口龍夫	1億8000万年前の雨から	2011	鉛筆、色鉛筆・和紙、紙	27.3 × 28.9
19	ロジャー・アックリング	ハリス島ローデル (アウター・ヘブリディーズ諸島) 1	1984	太陽光線、木片	10.5 × 2.5 × 1.2
20	ロジャー・アックリング	ハリス島ローデル (アウター・ヘブリディーズ諸島) 2	1984	太陽光線、木片	14.0 × 2.0 × 1.0
21	ロジャー・アックリング	ハリス島ローデル (アウター・ヘブリディーズ諸島) 4	1984	太陽光線、木片	9.5 × 1.4 × 2.4
22	デイヴィッド・ナッシュ	降りてくる船と中身	1989-1991	木	230.0 × 77.5 × 55.0
23	デイヴィッド・ナッシュ	ブレイシング・ゴーイング	1989	木炭・紙	100.0 × 185.0
24	フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー	ボフツカワの木と移ろう恋—パースでの一週間	1975	混合技法・チップボード	68.6 × 96.5
25	フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー	黒い鯨の歌	1979	木版・紙	57.0 × 43.0
26	フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー	緑の力	1976	シルクスクリーン、メタルプリント・紙	83.5 × 63.5
27	ホルスト・アンテス	ホビの年	1980	アクリル彩・紙	70.5 × 194.5
■第3章 わたしたちのこと					
28	カレル・アペル	黄色い帽子	1964	油彩・カンヴァス	81.0 × 65.0
29	ピエール・アレシンスキー	新聞雑報	1959	油彩・カンヴァス	100.0 × 149.5
30	中村宏	国家論	1964	インク、カシュール、油彩・カンヴァス	130.0 × 160.0
31	イヴ・クライン	人体測定 ANT66	1960	顔料、合成樹脂・カンヴァスに貼った紙	157.0 × 311.0
32	マリソール	貧しい家族 II	1987	木、ボール紙、人形、混合技法	251.5 × 355.6 × 99.0
33	イケムラレイコ	深い赤に臥す	2004	油彩・カンヴァス	60.0 × 80.0
34	塩田千春	ストーム	2019	リトグラフ・紙	30.0 × 40.0
35	塩田千春	セル	2019	リトグラフ・紙	30.0 × 40.0
36	新宅加奈子	I'm still alive	2018	インクジェットプリント・サテン紙、アルミ複合板	59.5 × 42.5
37	新宅加奈子	I'm still alive	2021	インクジェットプリント・サテン紙、アルミ複合板	42.5 × 59.5
38	新宅加奈子	I'm still alive	2021	インクジェットプリント・サテン紙、アルミ複合板	59.5 × 42.5

No	作者名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
39	アントニー・ゴームリー	見ることを学んでいる	1991	鉛、ファイバークラス	198.1 × 48.3 × 27.9
40	アントニー・ゴームリー	Immersion	1991	コンクリート	181.0 × 50.5 × 36.5
41	ニキ・ド・サンファール	鏡	1980	ポリエステル、鏡	104.0 × 152.0 × 12.5
■第4章 視覚、そして思考					
42	M.C. エッシャー	登って降りて	1947	リトグラフ・紙	50.5 × 20.5
43	M.C. エッシャー	婚姻の絆	1956	リトグラフ・紙	25.8 × 33.6
44	M.C. エッシャー	三つの世界	1955	リトグラフ・紙	36.2 × 24.5
45	M.C. エッシャー	昼と夜	1938	木版・紙	39.3 × 67.7
46	ヴィクトル・ヴァザルリ	TAVAS	1967-1968	テンペラ・カンヴァス	101.0 × 101.0
47	ブリジット・ライリー	オルフェウス悲歌 I	1978	アクリル・リンネル	140.5 × 130.0
48	ブリジット・ライリー	オルフェウス悲歌 II	1978	アクリル・リンネル	140.0 × 130.0
49	高松次郎	遠近法の箱	1967	シルクスクリーン・紙	72.3 × 48.2
50	高松次郎	遠近法のマラソン	1967	シルクスクリーン・紙	60.5 × 74.5
51	高松次郎	遠近法のベンチ	1967	シルクスクリーン・紙	76.5 × 58.0
■第5章 時間を超えて					
52	河原温	OCT. 19, 1989	1989	アクリル彩・カンヴァス (箱:新聞紙・ボール紙ケース)	66.0 × 91.4
53	河原温	MAY 10, 1990	1990	アクリル彩・カンヴァス (箱:新聞紙・ボール紙ケース)	66.0 × 91.4
54	河原温	JUNE 11, 1990	1990	アクリル彩・カンヴァス (箱:新聞紙・ボール紙ケース)	66.0 × 91.4
55	中西夏之	コンパクト・オブジェ (卵)	1962	ポリエステル・時計など	15.0 × 15.0 × 23.0
56	宮永愛子	はるかの眠る舟	2011	ナフタリン、ミクストメディア	11.5 × 5.5 × 4.0
57	荒木高子	原爆の証言	1983	陶	23.0 × 43.0 × 35.0
58	三島喜美代	新聞一包	1981	陶	16.0 × 23.0 × 28.0 (1 個) 11.5 × 12.5 × 14.5 (4 個)
59	河口龍夫	鎮魂の一周年	2012	新聞紙、紐、ジェッソ、黄色の塗料、 色鉛筆、ウレタンニス、マッチ箱 1 (鉛、カーネーションの種子、石 塑で型どりした臍の緒)、マッチ箱 2 (鉛、ひまわりの種子、蜜蝋、硫 化カドミウム、天然白亜)、マッチ 箱 3 (鉛、蜜蝋、蠅)、集成材	40.0 × 60.0 × 16.2
60	河口龍夫	貝の未来	2011	水彩・貝殻、石塑	
■第6章 拡大する美術					
61	クリスト	包まれたヴィットリオ・エマヌエー レ 2 世騎馬像、ミラノ大聖堂広場の ためのプロジェクト	1975	リトグラフ、コラージュ・ 紙写真ほか(8点組より4点)	各 71.0 × 55.5・ 55.5 × 71.0
62	クリスト	Large Valley Curtain	1971	ドローイング、コラージュ・紙	91.6 × 243.2
63	蔡國強	Projects for Extraterrestrials	1994	火薬、墨・土佐和紙	400.0 × 900.0
64	蔡國強	日々	1994	メモ、デッサン、書簡、パ ンフレットほか	60.0 × 45.0
65	川俣正	コンストラクション・サイト・プロ ジェクト 「ノヴェ・デ・ジュルホ・ カサパーヴァ」 マケット	1994	ベニヤ材、バルサ材、アク リル、コンテ、鉛筆	315.0 × 420.0 × 40.0
66	川俣正	コンストラクション・サイト・プロ ジェクト 「ノヴェ・デ・ジュルホ・ カサパーヴァ」 ワーキングノート	1994	ペン、インク、鉛筆・パネル	62.0 × 87.0
67	川俣正	コンストラクション・サイト・プロ ジェクト 「ノヴェ・デ・ジュルホ・ カサパーヴァ」 カラーフォトパネル	1994	チバクロームプリント・パ ネル	150.0 × 100.0
■第7章 小さな窓から見える世界					
68	長谷川潔	花 (切子ガラスに挿したアネモネと草 花)	1944-1945	アクアチント・紙	25.0 × 18.3
69	長谷川潔	宝石と香水	1946	エッチング・紙	24.2 × 18.2

No	作者名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
70	長谷川潔	花レースをバックにした花瓶の三つのアネモネ	1937	メゾチント・紙	26.0 × 20.5
71	長谷川潔	メキシコの鳩	1966	メゾチント・紙	26.2 × 35.3
72	浜口陽三	ザクロ (版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』より)	1978	カラーメゾチント・紙	11.5 × 11.5
73	浜口陽三	てんとう虫 (版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』より)	1978	カラーメゾチント・紙	11.5 × 11.5
74	浜口陽三	サクランボ (版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』より)	1978	カラーメゾチント・紙	11.5 × 11.5
75	浜口陽三	アスパラガス (版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』より)	1978	カラーメゾチント・紙	11.5 × 11.5
76	浜口陽三	毛糸の玉 (版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』より)	1978	カラーメゾチント・紙	11.5 × 11.5
77	浜口陽三	ブドウ (版画集『Hamaguchi's six original color mezzotints』より)	1978	カラーメゾチント・紙	11.5 × 11.5
78	柄澤齊	肖像 III ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト	1981	木口木版・紙	6.6 × 11.5
79	柄澤齊	肖像 IV アルチュール・ランボー	1982	木口木版・紙	19.5 × 14.5
80	柄澤齊	肖像 VII シャルル・ボードレー	1983	木口木版・紙	17.6 × 16.0
81	柄澤齊	肖像 IX フランツ・カフカ	1983	木口木版・紙	18.5 × 13.5
82	柄澤齊	肖像 XI ジェイムズ・アンソール	1983	木口木版・紙	16.7 × 11.3
83	柄澤齊	肖像 XIII エドガー・アラン・ポー	1983	木口木版・紙	22.2 × 6.2
84	柄澤齊	肖像 XIV マティアス・グリューネヴァルト	1983	木口木版・紙	9.8 × 17.0

■第8章 ホームカミング

85	マーク・ボイル	いわき風景一足跡、割れた泥、石とサンダルのある	1982	彩色ファイバークラス	208.5 × 365.5
86	河口龍夫	DARK BOX 1998	1998	鉄、閤	35.0 × 60.0 × 37.0
87	佐藤時啓	光一呼吸 四倉 7	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
88	佐藤時啓	光一呼吸 四倉 8	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
89	佐藤時啓	光一呼吸 薄磯	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
90	佐藤時啓	光一呼吸 波立 1	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
91	佐藤時啓	光一呼吸 波立 2	1996	リスフィルム、アルミニウム板、蛍光灯、電線	102.0 × 125.0
92	野田哲也	日記 1982年2月15日 いわきにて	1982	シルクスクリーン、木版・紙	44.5 × 64.2
93	松田松雄	風景 (民-A)	1977	油彩・カンヴァス	162.0 × 162.0
94	松田松雄	風景 (民-C)	1977	油彩・カンヴァス	162.0 × 162.0
95	緑川宏樹	はぜるQ体 (M氏の系図)	1975 (1985再制作)	陶	直径11.0 × 18.0
96	鈴木新夫	ゴンドラ	1966	油彩・カンヴァス	130.5 × 162.3
97	若松光一郎	大地の歌	1985	墨、カゼインカラー、油彩、和紙・カンヴァス (3点組)	227.0 × (162.0+182.0+162.0)
98	田子英長	着陸地点	1985	油彩・カンヴァス	259.0 × 193.0
99	稲川敏之	蝕の刻	1987	油彩・カンヴァス	227.3 × 181.8
100	田口安男	手のうら焰	1980	テンペラ、油彩・カンヴァス	193.0 × 161.5
101	鈴木芳子	ある一族の肖像	1976	顔料・紙	196.1 × 291.0
102	佐藤忠良	常磐の大工	1956	セメント	21.5 × 14.5 × 23.0
103	佐藤忠良	古河炭鉱・ズリ山	1956	鉛筆、コンテ・紙	29.0 × 37.5
104	朝倉摂	古河好間	1956	鉛筆・紙	40.9 × 32.5
105	西常雄	カンテラ	1956	サインペン・紙	40.8 × 31.7
106	鳥居敏文	切り羽に向う	1956	鉛筆、コンテ・紙	35.7 × 24.5
107	中谷泰	炭坑にて 5	1956	鉛筆、水彩・紙	32.0 × 40.8

No	作者名	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
108	吉井忠	イワキ炭坑 (昼)	1956	鉛筆・紙	25.0 × 30.0
109	森芳雄	坑内にて・切羽	1956	鉛筆・紙	20.3 × 27.8
110	鈴木新夫	洗炭する女	1955-1956	鉛筆、水彩、コンテ・紙	35.2 × 25.1
111	鈴木新夫	炭坑・洗濯物のある風景	1955-1956	水彩、パステル、コンテ・紙	36.0 × 26.5
112	若松光一郎	五月のヤマ	1957	水彩、鉛筆・紙	32.0 × 40.7
113	遠藤正三	洗浄筒のある風景	1954	油彩・カンヴァス	80.3 × 100.0
114	伊沢賢一	炭鉱住宅	1958	鉛筆、水彩・紙	53.0 × 73.0
115	中村亨司	炭鉱の想い出	1973	油彩・カンヴァス	145.5 × 97.0
116	北郷悟	ark	1980	テラコッタ	60.0 × 80.0 × 60.0
117	坂本勇	錦秋阿弥陀堂	1972 (2004 刷り)	木版・紙	59.2 × 74.5
118	阿部廣司	漁港	1976	水彩・紙	130.0 × 89.0
119	阿部セキ	市場の一隅	1978	油彩・カンヴァス	113.8 × 147.0
120	鈴木邦夫	ヨットのある風景 2 '75	1975	油彩・カンヴァス	130.5 × 162.0
121	塩田清忠	ヨットハーバー 81	1981	油彩・カンヴァス	112.0 × 145.0
122	北郷喜三郎	廃 (老船の肖像)	1984	油彩・カンヴァス	194.0 × 112.0
123	坂本孝正	アメリカから来た少女	不詳	油彩・カンヴァス	61.0 × 50.5
124	坂本孝正	赤ちゃん	1935 頃	油彩・カンヴァス	54.0 × 45.0
125	大森義夫	静物	1926	油彩・板	31.8 × 41.0
126	鈴木新夫	おさげの少女	1978	油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0
127	若松光一郎	自画像	1930 年代	油彩・板	33.0 × 24.0
128	若松光一郎	父	1930 年代	油彩・板	33.0 × 24.0
129	若松光一郎	風景	1945	油彩・板	24.0 × 33.0
130	若松光一郎	素直 1 歳	1949	油彩・板	33.0 × 23.7
131	若松光一郎	素直 3 歳	1952 頃	油彩・板	33.0 × 23.8
132	若松光一郎	素直 4 歳	1953	油彩・ファイバーボード	27.4 × 22.0

フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン

世界中で愛されるフィンランドのモダンデザインを、家具や陶器、ガラス、テーブルウェア、テキスタイルにより紹介する展覧会。モダンデザインの金字塔《スツール60》を始めとして名作家具を多数デザインした建築家アルヴァ・アアルト（1898-1976）や、国民的人気を誇った食器シリーズ《キルタ》のデザイナー、カイ・フランク（1911-1989）、《バード》シリーズなどポップで楽しいガラス作品を残したオイバ・トイッカ（1931-2019）、さらにはマリメッコのデザイナーとして活躍したテキスタイルデザイナー、石本藤雄（1941-）に至るまで、バラエティ

豊かな作家を紹介した。

関連の催しとして、オンライン・ショップ、スコープ代表の平井千里馬氏と出品作家の石本藤雄氏との記念対談、北欧建築が専門の建築史家、和田菜穂子氏の講演会、ヒンメリ作家、あだちようこ氏によるワークショップ、アルヴァ・アアルトのドキュメンタリー映画『アアルト』の上映会を開催した。

展示室には名作モダンデザインが所狭しと並び、多くの来場者の目を楽しませた。展示と一連の催しにより、多角的にフィンランドデザインを紹介する事業となった。

会 期 2024年6月22日(土)～8月18日(日)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室 1、2
主 催 いわき市立美術館、福島民友新聞社(創刊130周年プレ記念事業)、福島中央テレビ(開局55周年プレ記念事業)
特別協力 スコープ
協 力 アルテック、イッタラ、カウニステ、モノラボン (iwatemo)、世界文化社

後 援 フィンランド大使館、フィンランドセンター、日本フィンランド協会
企画協力 キュレイターズ
図 録 キュレイターズ編『フィンランドのライフスタイル：暮らしを豊かにするデザイン』世界文化社、2023年



●フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン 出品リスト

作者名	作品名	制作年／所蔵先
■ Section 1 《Timeless》タイムレス～時代を超えて		
アルヴァ・アアルト	花瓶「サヴォイ」ベース	1936-37 / スコープ
アルヴァ・アアルト	花瓶「アルヴァ・アアルトコレクション」	1936-37 / スコープ
アルヴァ・アアルト	「L- レッグ」の製造工程サンプル	アルテック
アルヴァ・アアルト	スツール 60	1933 / スコープ
アルヴァ・アアルト	69 チェア	1935 / スコープ
アルヴァ・アアルト	木工レリーフ	1934 / スコープ
アルヴァ・アアルト	41 アームチェア パイミオ	1932 / アルテック
アルヴァ・アアルト	403 アームチェア ホールウェイ (玄関椅子)	1932 / スコープ
アルヴァ・アアルト	A338 ペンダント コケモモ	1958 / 個人蔵
アルヴァ・アアルト	46 アームチェア	1947 / スコープ
アルヴァ・アアルト	A331 ペンダント ビーハイヴ	1953 / スコープ
アルヴァ・アアルト	ラウンド・テーブル	1940 年代 / スコープ
アルヴァ・アアルト	402 アームチェア	1933 / スコープ
アルヴァ・アアルト	「L- レッグ」を用いたサイドテーブル	1940-50 年代 / スコープ
アルヴァ・アアルト	A440 ペンダント	1954 / 個人蔵
アルヴァ・アアルト	65 チェア スウェーデン製	1935 / スコープ
アルヴァ・アアルト	100 バーテーション	1936 / スコープ
アルヴァ・アアルト	901 ティートロリー	1936 / スコープ
アルヴァ・アアルト	400 アームチェア タンク	1936 / スコープ
アルヴァ・アアルト	木工レリーフ	1940 年代 / スコープ
アルヴァ・アアルト	「L- レッグ」を用いたラウンド・ソファータブル	1940-50 年代 / スコープ
アルヴァ・アアルト	A330S ペンダント ゴールデンベル	1937 / アルテック
アルヴァ・アアルト	401 アームチェア	1933 / スコープ
アルヴァ・アアルト	チェア No. 2	1930 / スコープ
アルヴァ・アアルト	「Y- レッグ」を用いたテーブル	1970 年代 / スコープ
アルヴァ・アアルト	A330 ペンダント ゴールデンベル	1953 / 個人蔵
アルヴァ・アアルト	チェア No. Y 612	1946-47 / スコープ
アルヴァ・アアルト	A808 フロアライト	1955 / スコープ
アイノ・アアルト	A110 キャビネット	1940 年代 / スコープ
アイノ・アアルト	タンブラー No. 4059	1937-38 / スコープ
アイノ・アアルト	《ボルゲブリック》シリーズ	1932 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ドムス ラウンジ ロッキングチェア	1946 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ドムス ラウンジチェア	1946 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ドムス ラウンジチェア (青色カバー付)	1946 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ドムス チェア	1946 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ビルッカ ラウンジチェア	1955 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ビルッカ スツール	1955 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ルッキチェア	1951 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	クリノレッテ・アームチェア	1962 / アルテック
イルマリ・タビオヴァーラ	アスラック・チェア	1958 / アルテック
イルマリ・タビオヴァーラ	マドモアゼル ロッキングチェア	1956 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	オヴァレット コーヒーテーブル	1954 / スコープ
イルマリ・タビオヴァーラ	ビルッカ ベンチ	1955 / スコープ
カイ・フランク	《キルタ》シリーズ	1952 / スコープ
カイ・フランク	《ティーマ》シリーズ	1981 / スコープ
カイ・フランク	調味料入れ	1959-68 / スコープ
カイ・フランク	調味料入れセット 2190 チークトレイ付き	1953-63 / スコープ
カイ・フランク	オードブルディッシュ 《KF1》「ロケロヴァティ」	1957 / スコープ
カイ・フランク	オードブルディッシュ 《KF2》「ロケロヴァティ」	1957 / スコープ
カイ・フランク	《カルティオ》シリーズ	1958 / 個人蔵
カイ・フランク	リキュールボトル&グラスセット	1961-68 / スコープ
カイ・フランク	ボウル 《KF216》「カエルの池」	1953 / スコープ
カイ・フランク	透し細工容器 《KF279》	1962-64 / スコープ
カイ・フランク	花瓶 N559 《サルガッソ》	1972-77 / 個人蔵
カイ・フランク	ハンドル付きボウル N400 《サルガッソ》	1972-77 / 個人蔵

作者名	作品名	制作年／所蔵先
カイ・フランク	プレート《ルナ》	1971-84／個人蔵
カイ・フランク	デザート・ボウル	不詳／個人蔵
カイ・フランク	オブジェ KF224 《ウッドコック（キツツキ）》	1953／スコープ
カイ・フランク	オブジェ《キウイバード》（足付き）	1975-76／スコープ
カイ・フランク	オブジェ《キウイバード》	1975-76／スコープ
ティモ・サルパネヴァ	ホルダー付きグラス《ツェイッカ》	1957／個人蔵
ティモ・サルパネヴァ	グラス《アロマ》	1956-83／個人蔵
ティモ・サルパネヴァ	グラス	不詳／個人蔵
ティモ・サルパネヴァ	「i-line」シリーズ	1956／個人蔵
カイ・フランク／サーラ・ホペア	オードブルセット ボウル 1367 & チーク・トレー	1950 年代／スコープ
サーラ・ホペア	グラス 1718	1954／個人蔵
サーラ・ホペア	ピッチャー 1618	1954／個人蔵
サーラ・ホペア	ショットグラス	不詳／個人蔵
エルッキ・ヴェサント	ショットグラス	不詳／個人蔵
ナニー・スティル	ボトル「グラッポニア」	不詳／個人蔵
ケルトゥ・スルミネン	デザートグラス《アピラ（クローバー）》	1977-85／個人蔵
ケルトゥ・スルミネン	クリーマー《アピラ（クローバー）》	1977-85／個人蔵
ケルトゥ・スルミネン	オーナメント	1977-91／個人蔵
オイバ・トイッカ	プレート《ピオニ》	1975-2001／個人蔵
オイバ・トイッカ	ボトル&グラスセット《ファウナ》	1970-76／個人蔵
ウッラ・プロコペ	プレート、カップ&ソーサー《ヴァレンシア》	1960／個人蔵
ウッラ・プロコペ	ティーカップ&ソーサー《ロスマリン（ローズマリー）》	1966-77／個人蔵
ウッラ・プロコペ	カップ&ソーサー《ルスカ（紅葉）》	1960／個人蔵
（フォルム）ウッラ・プロコペ／ （絵付）アンヤ・ヤーティネン ウィ ンクヴィスト	プレート、カップ&ソーサー《パユ（柳）》	1969-73／個人蔵
ライヤ・ウオシッキネン	カップ&ソーサー《リーキンクッカ（孔雀）》	1952／個人蔵
（絵付）ライヤ・ウオシッキネン／ （フォルム）リカルト・リンド	カップ&ソーサー《モッティ》	1965-69／個人蔵
ライヤ・ウオシッキネン	カップ&ソーサー《ルキンラパ（糸巻棒）》	1959-73／個人蔵
ライヤ・ウオシッキネン	カップ&ソーサー《ボルクピュオラ（自転車）》	1952／個人蔵
（絵付）ライヤ・ウオシッキネン／ （フォルム）ウッラ・プロコペ	コーヒーカップ&ソーサー《コラッリ（珊瑚）》	1983-87／個人蔵
（絵付）エステリ・トムラ／ （フォルム）カイ・フランク	プレート、コーヒーカップ&ソーサー《リンキ（輪）》	1971-75／個人蔵
エステリ・トムラ	コーヒーカップ&ソーサー《ハーレム》	1964-71／個人蔵
エステリ・トムラ	コーヒーカップ&ソーサー《イソクッカ（大きい花）》	1970／個人蔵
（絵付）エステリ・トムラ／ （フォルム）イエラン・ベック	プレート《ガーデニア（クチナシ）》	1973-74／個人蔵
カーリナ・アホ	スクエアプレート HF2 トレイ付き	1950 年代／スコープ
（絵付）ビルゲル・カイピアイネン／ （フォルム）カイ・フランク	ジャグ《リンツ（鳥）》モデル No. FL-1	不詳／個人蔵
ビルゲル・カイピアイネン	プレート《アピラ（クローバー）》モデル No. 1971	不詳／個人蔵
（絵付）ビルゲル・カイピアイネン／ （フォルム）カイ・フランク	ジャグ《ベルホネン（蝶）》モデル No. FL-3	不詳／個人蔵
作者不詳	コーヒーカップ&ソーサー《ウンカリ（ハンガリー）》	1969-75／個人蔵
■ Section 2 《Organic》オーガニック～自然とともに		
タビオ・ヴィルカラ	テابل	1958／スコープ
タビオ・ヴィルカラ	ニッケ チェア	1958／スコープ
タビオ・ヴィルカラ	《ウルティマ ツーレ》シリーズ	1968／個人蔵
ルート・ブリュック	陶板「ダンス」	1957／スコープ
ルート・ブリュック	陶板「母子」	1954／スコープ
ルート・ブリュック	ボウル	1960 年代／スコープ
ルート・ブリュック	ボウル	1968／スコープ
ルート・ブリュック	レリーフ「蝶」	1957／スコープ
ルート・ブリュック	レリーフ	1960-64／スコープ
ルート・ブリュック	陶板「少女」	1949 頃／スコープ

作者名	作品名	制作年／所蔵先
ルート・ブリュック	ボウル	1960 年代／スコープ
ルート・ブリュック	スクエア・ジャー	1960 年代／スコープ
ルート・ブリュック	ピッチャー	1942-49 / スコープ
ルート・ブリュック	陶板「女性」	1948 / スコープ
ヨルマ・ヴェンノラ	《クーシ》シリーズ	1980-92 / 個人蔵
ビルゲル・カイピアイン	キャンドルスティック	1960 年代／スコープ
ビルゲル・カイピアイン	オブジェ《パンジーの木》	1964 / スコープ
ビルゲル・カイピアイン	ビーズバード（シャクシギ）	1950 年代／スコープ
ビルゲル・カイピアイン	ウォール・プレート	1950-70 年代／スコープ
石本藤雄	オブジェ「プレート」	2003 / 個人蔵
石本藤雄	オブジェ「プレート」	2003 / 個人蔵
石本藤雄	オブジェ「プレート」	2005 / 個人蔵
石本藤雄	レリーフ《陶の花》	2008-19 / スコープ
石本藤雄	オブジェ《冬瓜》	2015-17 / スコープ
石本藤雄	マリメッコでデザインしたさまざまなファブリック	
	ファブリック「ヴィオラ」	1976 / スコープ
	ファブリック「アーパ」	不詳／スコープ
	ファブリック「草原」	1978 / スコープ
	ファブリック「蕾」	1982 / スコープ
	ファブリック「スポットライト」	1980 / スコープ
	ファブリック「ロンボロ」	1983 / スコープ
	ファブリック「熱」	1985 / スコープ
	ファブリック「花の名」	1976 / スコープ
	ファブリック「霞」	1980 / スコープ
	ファブリック「氷山」	1983 / スコープ
	ファブリック「花畑」	1976 / スコープ
	ファブリック「薄氷」	1979 / スコープ
	ファブリック「笑い」	1982 / スコープ
	ファブリック「雷雲」	1980 / スコープ
	ファブリック「風景」	1982 / スコープ
	ファブリック「オストヤッキ」	1983 / スコープ
オイバ・トイッカ	花瓶《バンブー》	1966 / スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース	1968-72 / スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムのように装飾されたガラスオブジェ	不詳／スコープ
オイバ・トイッカ	シエッポ	1972-78/1995-96/2003-04/2015 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「キーックリ」	1976-78 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「スリーピングキーックリ」	1976-78 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「ラップランドフクロウ」	1984-85 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「ワシミミズク」	1984-85 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「フクロウ」MOG（ワシントン州ガラス美術館）限定モデル	2011 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「フクロウ」	1989 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「幸せな鳥」	1998-2000 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「産毛のひよこ」	1998-2000 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「シャクシギ」	2008-14 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「レッパイネン」	2007 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード	1970 年代／スコープ
オイバ・トイッカ	アニュアルバード	1996-2022 / スコープ
オイバ・トイッカ	バード「プナノッカ」	2003 / スコープ
オイバ・トイッカ	ロリポップ	1960-2010 年代／スコープ
オイバ・トイッカ	スペシャル・キューブ（木々の花が咲く時）	2009 / スコープ
オイバ・トイッカ	キューブ（ユニークピース）	不詳／スコープ
オイバ・トイッカ	スペシャル・キューブ（ヌータヤルヴィ 210 周年のための限定品）	2003 / スコープ
オイバ・トイッカ	スペシャル・キューブ（北欧投資銀行のための限定品）	不詳／スコープ
オイバ・トイッカ	スペシャル・キューブ（ヌータヤルヴィ 200 周年のための限定品）	1993 / スコープ
オイバ・トイッカ	オブジェ「魚」	1964 / スコープ

作者名	作品名	制作年／所蔵先
オイバ・トイッカ	オブジェ「象」	1964-65／スコープ
オイバ・トイッカ	アニュアルキューブ	1977-2022／スコープ
オイバ・トイッカ	ボトル「ブテリ」	1975-77／スコープ
オイバ・トイッカ	コート掛け「パラダイス・ツリー」プロトタイプ	不詳／スコープ
作者不詳	受話器	不詳／スコープ
ユルイエ・クッカプロ	椅子・スツール「カルーセリ（回転木馬）」	1964-65／スコープ
■ Section 3 《Finland and Japan》		
・スコープ	日本における フィンランド・デザイン	
アルヴァ・アアルト	スツール 60	2000/1933／スコープ
アルヴァ・アアルト	木工レリーフ	2020/1933／スコープ
アルヴァ・アアルト	ボウル「アルヴァ・アアルト コレクション」（シーブルー）	2019/1936-37／スコープ
アルヴァ・アアルト	花瓶「アルヴァ・アアルト コレクション」（スモーキークリア）	2018/1936-37／スコープ
アルヴァ・アアルト	花瓶「アルヴァ・アアルト コレクション」（モスグリーン）	2018/1936-37／スコープ
イルマリ・タピオヴァーラ	ピルッカ スツール（ハニー×ブラック）	2020/1955／スコープ
イルマリ・タピオヴァーラ	ピルッカ スツール（ブラウン×ブラック）	2020/1955／スコープ
イルマリ・タピオヴァーラ	ピルッカ スツール（ハニー×ハニー）	2020/1955／スコープ
イルマリ・タピオヴァーラ	ピルッカ スツール（ブラウン×ハニー）	2020/1955／スコープ
ヘイニ・リータフタ	《ルノ・フロストベリー》	2020/2009／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「キークリ」（赤）	2020／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「キークリ」（ウルトラマリンブルー）	2019／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「キューヒュー」	2015／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「キークリ」	2012／スコープ
オイバ・トイッカ	ロリポップ	2020/2021/1960-2010 年代 ／スコープ
オイバ・トイッカ	蓋付ボムボムボトル 試作 2	2014／スコープ
オイバ・トイッカ	蓋付ボムボムボトル 試作 3	2014／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムボトル	2015／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース「竹」	2015／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（scope A モデル・赤）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（scope H1 モデル・黄）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（scope B モデル・水色）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（scope F1 モデル・水色）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（scope E モデル・赤）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（scope D モデル・紫）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（scope G モデル・緑）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（oiva A モデル・緑、水色）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（oiva B モデル・黄）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（oiva C モデル・水色）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（oiva E モデル・紫）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（oiva F モデル・緑）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（oiva D モデル・赤）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（oiva G モデル・紫）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	ボムボムベース（水色）	2017／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「ウグラ（フクロウ）」	2012／スコープ
オイバ・トイッカ	エッグ	2012-13／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「アノ」	2012／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「フェスティブキウィ」	2020／スコープ
オイバ・トイッカ	バード「ラカティ」	2012／スコープ
カイ・フランク	《ティーマ》	2020/1981／スコープ
・イワテモ		
ヴィッレ・コッコネン	トレイ「VK」（S）	個人蔵、モノラボン蔵
ヴィッレ・コッコネン	トレイ「VK」（L）	個人蔵、モノラボン蔵
ヴィッレ・コッコネン	トレイ「VK」（M）	個人蔵、モノラボン蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」（L）3D モデル	作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」（L）石膏型	作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」（L）蓋 型	作家蔵

作者名	作品名	制作年／所蔵先
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」(L) 型	作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」(S) 3D モデル	作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」(S)	個人蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」(L)	個人蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」(S) 確認用カット	作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」(L) 確認用カット	作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	鉄瓶「VK」(S) 焼き付け (塗り前)	作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	スツール「VK」	個人蔵
ヴィッレ・コッコネン	酒瓶ラベル「鷺の尾」	2018／わしの尾
ヴィッレ・コッコネン	猪口	2019／作家蔵
ヴィッレ・コッコネン	テキスタイル「YAMANAMI」	2021／個人蔵
ハッリ・コスキネン	ボトル&カップ「HK」(S)	個人蔵、モノラボン蔵
ハッリ・コスキネン	ボトル&カップ「HK」(L)	個人蔵、モノラボン蔵
ハッリ・コスキネン	ジャー「HK」	個人蔵、モノラボン蔵
ハッリ・コスキネン	鉄瓶「HK」(L)	個人蔵
ハッリ・コスキネン	鉄瓶「HK」(S)	個人蔵
ハッリ・コスキネン	鉄瓶「HK」(S) 3D モデル	作家蔵
ハッリ・コスキネン	鉄瓶「HK」(L) 確認用カット	作家蔵
ハッリ・コスキネン	鉄瓶「HK」(L) 確認用カット (バリ付き)	作家蔵
ハッリ・コスキネン	鉄瓶「HK」(S) 確認用カット	作家蔵
ハッリ・コスキネン	スツール「HK」	個人蔵
ハッリ・コスキネン	椅子「HK」	個人蔵
ハッリ・コスキネン	収納家具「ファッティーコンテナーズ」	1998／個人蔵
ハッリ・コスキネン	椅子「HK」 MAJA HOTEL KYOTO パージョン	作家蔵
ハッリ・コスキネン	照明「ブロックランプ」	1996／個人蔵
ハッリ・コスキネン	卓上灯	スコープ
ハッリ・コスキネン	テキスタイル「HASHIRA」	2021／個人蔵
・カウニステ		
ハンナ・コノラ	幼児用生地「リントゥセット」テストプリント・サンプル	2016／カウニステ
ハンナ・コノラ	ウール・スカーフ「リントゥセット」プロトタイプ	2016／カウニステ
ハンナ・コノラ	ファスナー・ポーチ「紙ふぶき」プロトタイプ	2018／カウニステ
ハンナ・コノラ	カーディガン「リントゥセット」(ピンク)	2018／個人蔵
ハンナ・コノラ	ロンパース「リントゥセット」(黄)	2018／カウニステ
ハンナ・コノラ	ファブリック「砂糖」(ピンク)	2010／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	キッチンタオル「森」サンプル	2011／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	メイクアップ・ポーチ「森」プロトタイプ	2014／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	鞆「スキー休暇」プロトタイプ	2018／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	シート・クッション「モッキラ」プロトタイプ	2018／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	サンドウィッチ・プレート「モッキラ」プロトタイプ	2018／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	ファブリック「モッキラ」(ブルー)	2015／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	下絵「モッキラ」	2013／カウニステ
ビョーン・ルネ・リー	下絵「森」	2010／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	バックパック「すみれ」プロトタイプ	2018／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	メイクアップポーチ「異国の地」パターン・サンプル	2013／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	ソックス「異国の地」サンプル	2018／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	ウール・ブランケット「ジグザグ」プロトタイプ	2012／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	ファブリック「果物」(オリーブグリーン)	2019／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	ファブリック「幸運」(グレー)	2022／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	ファブリック「花」(水色)	2020／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	ファブリック「すみれ」(イエロー)	2015／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	ファブリック「果物」(ライトグリーン)	2019／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	下絵「果物」	2018／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	下絵「花」	2020／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	原画「異国の地」	2010／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	下絵「すみれ」	2015／カウニステ
ハンネレ・アイヤラ	下絵「幸運」	2021／カウニステ

作者名	作品名	制作年／所蔵先
マッティ・ピックヤムサ	マグカップ「モンキー」プロトタイプ	2015／カウニステ
マッティ・ピックヤムサ	トレー「日曜日」(水色・黄)	2015／カウニステ
マッティ・ピックヤムサ	ファスナー・ポーチ「日曜日」サンプル	2013／カウニステ
マッティ・ピックヤムサ	「日曜日」生地サンプル	2013／カウニステ
マッティ・ピックヤムサ	ファブリック「日曜日」(ブルー)	2012／カウニステ
マッティ・ピックヤムサ	ファブリック「ポプリ」(ブルー×ピンク)	2016／カウニステ
マリカ・マイヤラ	ファブリック「ヘルシンキ」テストプリント・カラーサンプル	2017／カウニステ
マリカ・マイヤラ	ファスナー・ポーチ「ヘルシンキ」プロトタイプ	2018／カウニステ
マリカ・マイヤラ	生地サンプル「夏の隠れ家」	2020／カウニステ
マリカ・マイヤラ	半袖Tシャツ「ヨガ・ベアー」	2018／カウニステ
マリカ・マイヤラ	ファブリック「ヘルシンキ」(ブルー)	2017／カウニステ
マリカ・マイヤラ	ファブリック「夏の隠れ家」(ダークグリーン)	2019／カウニステ
マリカ・マイヤラ	下絵「夏の隠れ家」	2019／カウニステ
ミロコマチコ	キッチンタオル「くま」サンプル	2014／カウニステ
ミロコマチコ	ブランケット「ヒョウ」サンプル	2013／カウニステ
ミロコマチコ	ファブリック「ラウッタ島」	2016／カウニステ
ミロコマチコ	原画「くま」	2012／カウニステ
■ Section 4 《Traditional Lifestyles and Handicrafts》伝統的な手仕事、文化		
山本睦子	ヒンメリ	2009／作家蔵
作者不詳	マッシュルームバスケット「LASTU」(L)	不詳／個人蔵
作者不詳	マッシュルームラウンド「LASTU」(S)	不詳／個人蔵
作者不詳	ツールボックス「KOPPA」	2018／個人蔵
作者不詳	バスケット「LASTU」(S)	不詳／個人蔵
作者不詳	バスケット「LASTU」(L)	不詳／個人蔵
作者不詳	白樺細工「籠」	不詳／個人蔵
作者不詳	白樺細工「レターケース」	不詳／個人蔵
作者不詳	ピルタナウハ織	不詳／個人蔵
作者不詳	織機一式	不詳／個人蔵
作者不詳	白樺細工「ツリー」	2018／個人蔵
作者不詳	白樺細工「オーナメント 天使」	2018／個人蔵
作者不詳	民族衣装 (女性用一式)	1974-90 年代／個人蔵
作者不詳	民族衣装 (男性用一式)	1970-80 年代／個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「オンドリ」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「キャット」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「クマ」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「クリスマスツリー」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「クリスマスツリー & ミニボール」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「チワワ」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「デコ・フラワー」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「トナカイ」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「ハリネズミ」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「ビッグ」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「フクロウ」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「マウス」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「ミニバード」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「ラビット」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ「ラブラドール」	個人蔵
アンネ・パソ	ロビ スライドショー	アルテック
ハッリ・コスキネン	サウナ・ラドル	2017／個人蔵
ハッリ・コスキネン	サウナ・バスケット	2017／個人蔵
ハッリ・コスキネン	サウナ用温度計	2017／個人蔵
映像	サウナキュラ (サウナ村)	
映像	アルヴァ・アアルトが設計したムーラツァロ実験住宅のサウナ	
映像	サウナ文化 (提供: フィンランド国立博物館)	

new born 荒井良二

いつも 知らないところへ たびするきぶんだった

荒井良二(1956- /山形生まれ)は、2005年に日本人として初めてアストリッド・リンドグレン記念文学賞を受賞するなど、世界的に高い評価を受けるアーティストであり、その活動は絵本だけではなく、絵画、音楽、舞台芸術など幅広いジャンルにおよぶ。また、東日本大震災の被災地でワークショップを精力的に行ったり、市民参加型の芸術祭を立ち上げたりするなど、社会とつながる創作活動にも取り組んでいる。

本展では、企画展示室だけではなく1・2階のロビーも使って、代表作や新作の絵本原画、絵画や立体作品、住宅建設現場の廃材を使った

新作インスタレーションなど約300点を紹介した。展示については、当館の展示空間に合わせ作家自身が現場でレイアウトしたもので、荒井の多彩で自由な表現を体感できる当館ならではの会場構成となった。

また、開幕初日に公開制作を行い、縦が90cm、横が全長約15mの完成作品を会期中2階ロビーで楽しむことができた。さらに、新作インスタレーションをモチーフにしたワークショップを実施し、そこで生まれた参加者の物語を作品の一部として展示した。そのほかアーティストトークを開催し、公開制作と同様に多くの参加者が訪れた。



会 期 2024年9月7日(土)～10月20日(日)
 会 場 いわき市立美術館 企画展示室1、2およびロビー
 主 催 いわき市立美術館、福島民報社、福島放送、朝日新聞社
 協 力 偕成社、積水ハウス、宮本武典

【図録データ】

編 集 横須賀美術館、千葉市美術館、刈谷市美術館、朝日新聞社
 執 筆 荒井良二、宮本武典
 インタビュー 松本育子、山根佳奈、菅原良美
 構成・デザイン 小坂橋基希 (akaoni)
 撮 影 田村融市郎、池田晶紀、akaoni
 写真提供 世田谷美術館 (撮影:上野則宏)、積水ハウス、志鎌康平、akaoni

印刷・製本 光村印刷
 プリンティングディレクター 川崎智徳 (光村印刷)
 発 行 朝日新聞社
 発 行 日 2023年8月7日

●new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった 出品リスト

[illegible]

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
33	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
34	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
35	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
36	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
37	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
38	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
39	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
40	遠い昔の誰かとこれからの誰か	2023	162.0 × 112.0	
41	遠い昔の誰かとこれからの誰か	2023	162.0 × 112.0	
42	名前の知らないわたしと誰かが聞いている	2023	162.0 × 112.0	
43	new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す	2023		
44	あさになったので まどをあけますよ 表紙	2011	38.5 × 53.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
45	あさになったので まどをあけますよ p.1	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
46	あさになったので まどをあけますよ p.2-3	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
47	あさになったので まどをあけますよ p.4-5	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
48	あさになったので まどをあけますよ p.6-7	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
49	あさになったので まどをあけますよ p.8-9	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
50	あさになったので まどをあけますよ p.10-11	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
51	あさになったので まどをあけますよ p.12-13	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
52	あさになったので まどをあけますよ p.14-15	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
53	あさになったので まどをあけますよ p.16-17	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
54	あさになったので まどをあけますよ p.18-19	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
55	あさになったので まどをあけますよ p.20-21	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
56	あさになったので まどをあけますよ p.22-23	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
57	あさになったので まどをあけますよ p.24-25	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
58	あさになったので まどをあけますよ p.26-27	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
59	あさになったので まどをあけますよ p.28-29	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
60	あさになったので まどをあけますよ p.30-31	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
61	あさになったので まどをあけますよ p.32	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
62	あさになったので まどをあけますよ 裏表紙	2011	38.5 × 57.5	偕成社／MOE 絵本屋さん大賞 1 位、第 59 回産経児童出版文化賞大賞
63	あさになったので まどをあけますよ スケッチ 2 枚			
64	きょうはそらにまるいつき 表紙	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第 22 回日本絵本賞大賞
65	きょうはそらにまるいつき p.1	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第 22 回日本絵本賞大賞
66	きょうはそらにまるいつき p.2-3	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第 22 回日本絵本賞大賞
67	きょうはそらにまるいつき p.4-5	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第 22 回日本絵本賞大賞
68	きょうはそらにまるいつき p.6／裏表紙	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第 22 回日本絵本賞大賞
69	きょうはそらにまるいつき p.7	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第 22 回日本絵本賞大賞
70	きょうはそらにまるいつき p.8	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第 22 回日本絵本賞大賞

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
71	きょうはそらにまるいつき p.9	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
72	きょうはそらにまるいつき p.10	2016	38.3 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
73	きょうはそらにまるいつき p.11	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
74	きょうはそらにまるいつき p.12-13	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
75	きょうはそらにまるいつき p.14	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
76	きょうはそらにまるいつき p.15	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
77	きょうはそらにまるいつき p.16	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
78	きょうはそらにまるいつき p.17	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
79	きょうはそらにまるいつき p.18-19	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
80	きょうはそらにまるいつき p.20-21	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
81	きょうはそらにまるいつき p.22	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
82	きょうはそらにまるいつき p.23	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
83	きょうはそらにまるいつき p.24-25	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
84	きょうはそらにまるいつき p.26	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
85	きょうはそらにまるいつき p.27	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
86	きょうはそらにまるいつき p.28-29	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
87	きょうはそらにまるいつき p.30-31	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
88	きょうはそらにまるいつき p.32	2016	38.5 × 57.5	偕成社 第22回日本絵本賞大賞
89	きょうはそらにまるいつき スケッチ 3枚			
90	たいようオルガン 表紙	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
91	たいようオルガン p.2-3	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
92	たいようオルガン p.4-5	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
93	たいようオルガン p.6-7	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
94	たいようオルガン p.8-9	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
95	たいようオルガン p.10-11	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
96	たいようオルガン p.12-13	2007	38.3 × 57.3	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
97	たいようオルガン p.14-15	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
98	たいようオルガン p.16-17	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
99	たいようオルガン p.18-19	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
100	たいようオルガン p.20-21	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
101	たいようオルガン p.22-23	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
102	たいようオルガン p.24-25	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
103	たいようオルガン p.26-27	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
104	たいようオルガン p.28-29	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
105	たいようオルガン p.30-31	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
106	たいようオルガン p.32	2007	38.5 × 57.5	アートン 偕成社（2008年版）、 第1回 JBBY 賞
107	空の絵本 p.2-3	2011	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
108	空の絵本 p.6-7	2011	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
109	空の絵本 p.12-13	2011	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
110	空の絵本 p.14-15	2011	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
111	空の絵本 p.22-23	2011	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
112	空の絵本 p.24-25	2011	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
113	空の絵本 p.30-31	2011	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
114	森の絵本 p.8-9	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
115	森の絵本 p.10-11	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
116	森の絵本 p.12-13	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
117	森の絵本 p.14-15	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
118	森の絵本 p.16-17	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
119	森の絵本 p.20-21	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
120	森の絵本 p.24-25	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
121	森の絵本 p.28-29	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
122	森の絵本 p.30-31	1999	37.8 × 56.5	作：長田弘、講談社 第31回 講談社出版文化賞絵本賞
123	水の絵本 p.4-5	2019	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
124	水の絵本 p.14-15	2019	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
125	水の絵本 p.22-23	2019	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
126	水の絵本 p.24-25	2019	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
127	水の絵本 p.26-27	2019	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
128	水の絵本 p.30-31	2019	38.5 × 57.5	作：長田弘、講談社
129	絵本 みち（原本）	1982	各 25.0 × 36.0	
130	みち（コピー）			
131	みち（コピー）			
132	みち（コピー）			
133	みち（コピー）			
134	みち（コピー）			
135	みち（コピー）			
136	みち（コピー）			
137	みち（コピー）			
138	みち（コピー）			
139	みち（コピー）			
140	みち（コピー）			
141	みち（コピー）			
142	みち（コピー）			
143	みち（コピー）			
144	みち（コピー）			
145	みち（コピー）			
146	なんていいんだぼくのせかい	2012	38.5 × 57.5	集英社
147	なんていいんだぼくのせかい	2012	38.5 × 57.5	集英社
148	ゆきのげきじょう p.6-7	2022	38.6 × 57.3	小学館
149	ゆきのげきじょう p.14-15	2022	38.6 × 57.3	小学館
150	ゆきのげきじょう p.18-19	2022	38.6 × 57.3	小学館
151	ゆきのげきじょう p.24-25	2022	38.6 × 57.3	小学館
152	ゆきのげきじょう p.24-25	2022	38.6 × 57.3	小学館
153	こどもたちはまっている p.2-3	2020	38.4 × 57.0	亜紀書房、第26回日本絵本賞
154	こどもたちはまっている p.8-9	2020	38.4 × 57.0	亜紀書房、第26回日本絵本賞
155	こどもたちはまっている p.16-17	2020	38.4 × 57.0	亜紀書房、第26回日本絵本賞
156	こどもたちはまっている p.20-21	2020	38.4 × 57.0	亜紀書房、第26回日本絵本賞
157	こどもたちはまっている p.26-27	2020	38.4 × 57.0	亜紀書房、第26回日本絵本賞
158	はじまりはじまり p.2-3	1994	28.6 × 76.4	ブロンズ新社
159	はじまりはじまり p.13	1994	30.2 × 41.2	ブロンズ新社
160	はじまりはじまり p.21	1994	28.3 × 38.5	ブロンズ新社
161	はじまりはじまり p.28-29	1994	28.5 × 76.7	ブロンズ新社
162	はじまりはじまり p.30-31	1994	28.4 × 76.7	ブロンズ新社
163	スースーとネルネル p.4	1996	34.1 × 38.2	偕成社
164	スースーとネルネル p.7	1996	34.0 × 38.2	偕成社
165	スースーとネルネル p.14-15	1996	35.5 × 59.0	偕成社
166	スースーとネルネル p.16-17	1996	35.0 × 58.4	偕成社
167	スースーとネルネル p.20	1996	33.5 × 38.3	偕成社
168	スースーとネルネル p.21	1996	33.3 × 38.0	偕成社
169	えほんのこども 表紙、裏表紙	2008	40.0 × 66.7	講談社
170	えほんのこども p.6-7	2008	40.0 × 66.7	講談社
171	えほんのこども p.10-11	2008	40.0 × 66.7	講談社

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
172	えほんのこども p.16-17	2008	40.0 × 66.7	講談社
173	えほんのこども p.30-31	2008	40.0 × 66.7	講談社
174	ダミー本、東見本 25 冊			
175	不知火ライブペイント	2023		
176	Chidren are!		閉じた状態：50.8 × 38.8、開いた状 態：50.8 × 76.0	
177	気配の伝言板	2009	196.0 × 392.0	世田谷美術館蔵
178	つながりの伝言	2009	各 194.0 × 130.7	「進める荒井良二のいろいろ展」 世田谷文学館、世田谷美術館蔵
179	はっぴいさん 表紙	2003	38.0 × 56.1	偕成社
180	はっぴいさん p.4-5	2003	37.6 × 56.2	偕成社
181	はっぴいさん p.8-9	2003	37.9 × 56.4	偕成社
182	はっぴいさん p.12-13	2003	37.7 × 56.3	偕成社
183	はっぴいさん p.14-15	2003	38.1 × 56.3	偕成社
184	はっぴいさん p.18-19	2003	37.9 × 56.2	偕成社
185	はっぴいさん p.26-27	2003	37.7 × 56.3	偕成社
186	はっぴいさん p.26-27	2003	38.3 × 56.5	偕成社
187	流れ星スパーク奏でよギター	2022	72.7 × 53.0	
188	絵の中のぼくとぼくの中の絵	2023	51.5 × 36.5	
189	いつも知らないところへ旅する気分だった	2023	73.0 × 53.0	
190	ちっぼけというゆたかな Musica	2023		
191	無題	1989	90.5 × 65.0	「荒井良二展 FAIRYTALE OF JULY—7 月のおとぎ話」ギャ ラリーハウス MAYA
192	無題	1989	91.0 × 65.2	「荒井良二展 FAIRYTALE OF JULY—7 月のおとぎ話」ギャ ラリーハウス MAYA
193	無題	1988	91.0 × 65.2	「無国籍ファンタジー」西武ハ ビタ池袋店ギャラリーハビタ
194	無題	1988	91.0 × 65.2	「無国籍ファンタジー」西武ハ ビタ池袋店ギャラリーハビタ
195	SUNDANCE	1986	39.4 × 27.0	第 29 回チョイス展入選作、 年度賞受賞
196	GOODNIGHT IRENE	1986	27.2 × 19.7	第 29 回チョイス展入選作、 年度賞受賞
197	『POST じゃあにい』いったことのないたびによう	2020	62.0 × 86.7	フロット
198	『POST じゃあにい』いったことのないたびによう	2020	62.0 × 86.7	フロット
199	『POST じゃあにい』いったことのないたびによう	2020	62.0 × 86.7	フロット
200	『POST じゃあにい』いったことのないたびによう	2020	62.0 × 86.7	フロット
201	『POST じゃあにい』いったことのないたびによう	2020	62.0 × 86.7	フロット
202	『POST じゃあにい』いったことのないたびによう	2020	62.0 × 86.7	フロット
203	『POST じゃあにい』いったことのないたびによう	2020	62.0 × 86.7	フロット
204	えほんのこども	2008	100.0 × 73.0	「『日常じゃあにい』荒井良二 の展覧所」harappa gallery
205	NPB	2009	100.0 × 73.0	プロ野球チャリティーアート エキシビション「DIAMOND DREAMS」
206	a country between the worlds	2005	54.1 × 38.2	mu-cha-cha T シャツ用イラスト
207	たねのモケモケ（ライブペイント）	2010	100.0 × 65.0	「meta めた」Foil Gallery
208	木のモケモケ（ライブペイント）	2010	100.0 × 65.0	「meta めた」Foil Gallery
209	Picturebook Children	2008	100.0 × 73.0	「『日常じゃあにい』荒井良二 の展覧所」harappa gallery
210	I can go anywhere today	2019	116.7 × 91.0	「きょうのぼくはどこまでだって はしれるよ」Pinpoint Gallery
211	悲しみのめためた	2010	100.0 × 80.3	個展「meta めた」Foil Gallery
212	おかげさまのめためた	2010	100.0 × 85.0	個展「meta めた」Foil Gallery
213	モケモケ	2010	91.0 × 72.7	個展「meta めた」Foil Gallery
214	花の草（ライブペイント）	2008	100.0 × 73.0	「荒井良二の展覧会 R-brut」 SELF-SO アートギャラリー
215	ぼくのよる	2012	99.8 × 72.9	「在るこども」Foil Gallery 京都
216	きみのよる	2012	99.8 × 72.9	「在るこども」Foil Gallery 京都
217	Children are!	2012	100.0 × 73.0	
218	誰も知らない山の神さまちゃん	2018	151.0 × 136.5	
219	さよならベンギン	2012	41.0 × 32.0	「在るこども」Foil Gallery 京都

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
220	GOODNIGHT MOON	2012	32.0 × 41.0	「在るこども」 Foil Gallery 京都
221	The Dead Bird	2012	32.0 × 41.0	「在るこども」 Foil Gallery 京都
222	ちへいせんのみえるところ	2012	41.0 × 32.0	「在るこども」 Foil Gallery 京都
223	LITTLE YELLOW	2012	72.7 × 100.0	「在るこども」 Foil Gallery 京都
224	LITTLE BLUE	2012	72.7 × 100.0	「在るこども」 Foil Gallery 京都
225	逃げる子どもⅡ	2014	91.5 × 144.0	
226	のびのびのびっこ	2016	70.0 × 174.5 (開いた状態)	
227	CAFÉ じゃあにい	2010	72.6 × 172.8	「荒井良二の山形じゃあにい 2010」 山形まなび館
228	(仮) 山のヨーナの屏風			
229	粹ぼく画	2010	60.5 × 45.0	「meta めた」 Foil Gallery
230	架空選挙ポスター	1999	54.0 × 37.8	「荒井良二×古賀鈴鳴 [VISION] 384—観光的視覚楽—」 (二人展) ギャラリーハウス MAYA
231	芋煮会	2016	54.7 × 82.0	
232	アストリッド・めためた	2010	38.5 × 57.4	「meta めた」 Foil Gallery
233	MELODY	1990	28.0 × 42.3	トムズボックス
234	MELODY	1990	28.0 × 42.3 印刷 見本: 22.0 × 36.2	トムズボックス
235	MELODY	1990	28.0 × 42.3 印刷 見本: 22.0 × 36.2	トムズボックス
236	MELODY 印刷見本	1990	22.0 × 36.2	トムズボックス
237	ぼくの絵本「ぼくの中にいる ボクキミスキー」	1992	27.5 × 25.7	生活創庫
238	ぼくの絵本「ぼくの中にいる ボクキミスキー」	1992	27.5 × 25.7	生活創庫
239	いつもこんな感じですよ、でもそれよりも	2015	73.0 × 51.0	「荒井良二じゃあにい」 三菱地所アルティアム
240	山の神さまちゃん (土偶)	2016	H37.5 × W25.0 × D16.5	
241	山の神さまちゃん (土偶)	2016	H32.2 × W14.5 × D14.0	
242	山の神さまちゃん (土偶)	2016	H20.5 × W22.5 × D10.5	
243	山の神さまちゃん (土偶)	2016	H26.5 × W19.0 × D14.5	
244	山の神さまちゃん (土偶)	2016	H19.5 × W20.0 × D18.2	
245	山の神さまちゃん (土偶)	2016	H17.7 × W14.0 × D9.8	
246	山のこども (こけし)	2018・2022	64.5 × 15.3 π	「みちのおくの芸術祭山形ビエン ナーレ 2018」 文翔館、「荒井良二の アールぶるっと！」 世田谷美術館
247	山のこども (こけし)	2018・2022	59.0 × 15 π	
248	マッテルモン (マケット)	2014	39.5 × 29.5 × 20.5	大分ウォーターフロント研究会蔵
249	たいようをすいこむモン (マケット)	2014	38.0 × 50.0 × 25.5	大分ウォーターフロント研究会蔵
250	旅のスケッチ 16 冊			
251	旅のスケッチ ダミー			
252	山のヨーナ 一式	2018		「みちのおくの芸術祭山形ビ エンナーレ 2018」 文翔館
253	(仮) 山のヨーナの板絵	2018		
254	(仮) 山のヨーナの板絵	2018		
255	(仮) 薔薇のじゅうたん	2018		
256	(仮) 鳥のじゅうたん	2018		
257	くまのクーちゃん			
258	いしいしんじさん共作 山屏風「かゆい山」			
259	いしいしんじさん共作 山屏風「みえない山」			
260	いしいしんじさん共作 山屏風「あるく木」			
261	げんしくん (大)	2014		「みちのおくの芸術祭山形ビ エンナーレ 2014」 文翔館
262	げんしくん (小)	2014		「みちのおくの芸術祭山形ビ エンナーレ 2014」 文翔館
263	ロバのオルガン			
264	在るこども			シルクスクリーン
265	a story from Next Country	2008	73.0 × 100.0	「荒井良二の展覧会『つづきの国 のぼくの地図』」 Pinpoint Gallery
266	ダライ・ラマの話	2008	60.6 × 45.5	「荒井良二と行く...『ワードツァー。』 Arai Ryoji × the 4 Four exhibition」 (グループ展)、ART HOUSE
267	ダライ・ラマ	2008	53.0 × 45.5	「荒井良二と行く...『ワードツァー。』 Arai Ryoji × the 4 Four exhibition」 (グループ展)、ART HOUSE

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
268	印象波	2000 年代	91.0 × 65.2	
269	絵本の地図	2008	72.7 × 53.0	NHK「プロフェッショナル仕事の流れ儀」撮影用
270	マイ・ヒーロー	1990 年代	53.0 × 41.0	「マイヒーロー展」(グループ展) ギャラリーハウス MAYA
271	Picturebook Children (ライブペイント)	2008	91.0 × 72.7	「荒井良二の展覧所『えほんのこどもが』」Gallery Vie
272	Picturebook Children (ライブペイント)	2008	91.0 × 72.7	「荒井良二の展覧所『えほんのこどもが』」Gallery Vie
273	90 年代日本の絵本原画展ポスター	1994	58.6 × 42.8	dancing colors ボローニャブックフェアポスター図録用、板橋区立美術館
274	Children are!		53.0 × 45.5	
275	えほんのこども (ライブペイント)	2008	53.0 × 41.0	NHK「プロフェッショナル仕事の流れ儀」撮影用
276	赤ちゃんめめた	2010	91.0 × 73.0	個展「meta めた」Foil Gallery
277	僕の洞窟が	2008	100.0 × 73.0	「荒井良二の展覧会 R- brut」SELF-SO アートギャラリー
278	ベルリンの壁から	2007	60.4 × 45.0	「meta めた」Foil Gallery
279	Children are!	2012	116.7 × 91.0	「在るこども」Foil Gallery 京都
280	Children are!	2012	116.7 × 91.0	「在るこども」Foil Gallery 京都
281	Children are!	2012	116.7 × 91.0	「在るこども」Foil Gallery 京都
282	Children are!	2012	116.7 × 91.0	「在るこども」Foil Gallery 京都
283	Children are!	2012	116.7 × 91.0	「在るこども」Foil Gallery 京都
284	Children are!	2012	116.7 × 91.0	「在るこども」Foil Gallery 京都
285	こどもる	2014	100.0 × 73.0	「こどもる」、Satellite
286	(仮) Children are! (額装)			
287	(仮) Children are! (額装)			
288	(仮) Children are! (額装)			
289	(仮) Children are! (額装)			
290	Children are!			
291	りんご	2008	100.0 × 73.0	『「日常じゃあに い」荒井良二の展覧所」harappa gallery
292	はッピーなっつ p.8-9	2022	38.7 × 57.5	ブロンズ新社
293	はッピーなっつ p.14-15	2022	左: 32.1 × 22.7、 右: 38.5 × 33.4	ブロンズ新社
294	はッピーなっつ p.22-23	2022	左: 32.1 × 22.7、 右: 38.5 × 33.4	ブロンズ新社
295	はッピーなっつ p.26-27	2022	38.7 × 57.5	ブロンズ新社
296	はッピーなっつ p.30-31	2022	38.7 × 57.5	ブロンズ新社
297	TETO-TETO p.2	1993	34.0 × 28.0	荒井良二 +Sele
298	TETO-TETO p.4	1993	34.0 × 27.9	荒井良二 +Sele
299	TETO-TETO p.6	1993	34.0 × 27.9	荒井良二 +Sele
300	TETO-TETO p.8	1993	37.0 × 32.0	荒井良二 +Sele
301	TETO-TETO p.10	1993	34.0 × 28.0	荒井良二 +Sele
302	きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ p.2-3	2019	38.6 × 57.0	NHK 出版
303	きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ p.12-13	2019	38.6 × 57.0	NHK 出版
304	きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ p.26-27	2019	38.6 × 57.0	NHK 出版
305	きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ p.28-29	2019	38.6 × 57.0	NHK 出版
306	きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ p.30-31	2019	38.6 × 57.0	NHK 出版
307	きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ 制作メモ			
308	『てんとう虫』	1997-1999	36.9 × 28.1	UC カード PR 誌
309	『てんとう虫』	1997-1999	35.4 × 28.4	UC カード PR 誌
310	『てんとう虫』	1997-1999	36.0 × 30.4	UC カード PR 誌
311	『てんとう虫』	1997-1999	37.7 × 30.4	UC カード PR 誌
312	『てんとう虫』	1997-1999	39.9 × 30.0	UC カード PR 誌
313	『てんとう虫』	1997-1999	38.4 × 29.0	UC カード PR 誌
314	『みづゑ』第1回「ポスト」を描く	2005	35.8 × 52.5	秋号、美術出版社
315	『みづゑ』第2回「雪」を描く	2005	38.5 × 54.0	冬号、美術出版社
316	『みづゑ』第4回「壁」を描く	2006	38.5 × 53.0	夏号、美術出版社
317	『みづゑ』第5回「ひらがな」を描く	2006	38.5 × 52.3	秋号、美術出版社
318	『みづゑ』第6回「本」を描く	2006	38.5 × 54.5	冬号、美術出版社
319	『みづゑ』第7回「シマシマ」を描く	2007	38.5 × 54.0	春号、美術出版社
320	バスにのって表紙	1992	47.5 × 40.9	偕成社
321	バスにのって p.3	1992	40.7 × 50.0	偕成社

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
322	バスにのって p.10-11	1992	40.5 × 53.3	偕成社
323	バスにのって p.24-25	1992	71.4 × 41.2	偕成社
324	バスにのって p.28-29	1992	40.7 × 76.0	偕成社
325	バスにのって p.32	1992	40.9 × 50.0	偕成社
326	Letters from Fairytale ぼくのおとぎ話からの手紙 表紙	2007	28.5 × 38.2	フレーベル館
327	Letters from Fairytale ぼくのおとぎ話からの手紙 裏表紙	2007	28.6 × 38.3	フレーベル館
328	ルフランルフラン 表紙、裏表紙	2005	38.1 × 50.6	ブチグラバブリッシング、第 11 回日本絵本賞
329	ルフランルフラン p.9-10	2005	38.2 × 50.6	ブチグラバブリッシング、第 11 回日本絵本賞
330	ルフランルフラン p.17-18	2005	38.5 × 50.7	ブチグラバブリッシング、第 11 回日本絵本賞
331	ルフランルフラン p.25-26	2005	38.0 × 50.9	ブチグラバブリッシング、第 11 回日本絵本賞
332	ルフランルフラン p.27-28	2005	38.4 × 50.6	ブチグラバブリッシング、第 11 回日本絵本賞
333	ルフランルフラン p.29-30	2005	38.5 × 50.8	ブチグラバブリッシング、第 11 回日本絵本賞
334	きょうというひ p.7	2005	38.4 × 28.6	B L 出版、この絵本が好き！ 2006 年版第 1 位
335	きょうというひ p.9	2005	38.4 × 28.6	B L 出版、この絵本が好き！ 2006 年版第 1 位
336	きょうというひ p.15	2005	38.5 × 28.5	B L 出版、この絵本が好き！ 2006 年版第 1 位
337	きょうというひ p.16-17	2005	31.0 × 46.4	B L 出版、この絵本が好き！ 2006 年版第 1 位
338	きょうというひ p.24-25	2005	31.0 × 46.6	B L 出版、この絵本が好き！ 2006 年版第 1 位
339	きょうというひ p.28-29	2005	31.2 × 46.0	B L 出版、この絵本が好き！ 2006 年版第 1 位
340	きょうというひ p.30-31	2005	31.2 × 46.3	B L 出版、この絵本が好き！ 2006 年版第 1 位
341	こどもる 表紙／裏表紙	2015	25.6 × 69.3	岩崎書店
342	こどもる p.5-6	2015	25.6 × 36.3	岩崎書店
343	こどもる p.16-17	2015	25.6 × 36.3	岩崎書店
344	ちちる	2015	9.8 × 7.0	岩崎書店
345	よだる	2015	10.0 × 7.3	岩崎書店
346	ひなたる	2015	12.2 × 9.0	岩崎書店
347	声る	2015	12.3 × 8.9	岩崎書店
348	くまる	2015	9.2 × 9.0	岩崎書店
349	声る	2015	25.6 × 18.0	岩崎書店
350	かくるる	2015	14.9 × 10.2	岩崎書店
351	ほじるる	2015	15.0 × 10.1	岩崎書店
352	カエる	2015	14.7 × 10.3	岩崎書店
353	なみだる	2015	15.0 × 10.3	岩崎書店
354	ガリる	2015	12.7 × 9.1	岩崎書店
355	しんぶんる	2015	14.9 × 10.3	岩崎書店
356	月る	2015	14.9 × 10.3	岩崎書店
357	ゆあがる	2015	12.3 × 8.9	岩崎書店
358	『Japanese Children's Books 2022』表紙	2022	43.0 × 39.0	JBBY
359	『おすすめ！世界の子どもの本』表紙	2022	42.6 × 38.2	JBBY
360	『あとな』ロウソク	2004-2008	29.0 × 38.0	アートン
361	『あとな』庭	2004-2008	28.6 × 38.3	アートン
362	『あとな』すべにいる	2005	27.0 × 37.5	9 月号、アートン
363	『暮しの手帖』表紙	2022	37.7 × 38.7	第 19 号、2022 年 7 月 25 日、 暮しの手帖社
364	『SPOON』For Spoon 2004	2004	38.4 × 28.4	プレビジョン
365	『SPOON』	2004	31.0 × 24.8	プレビジョン
366	『SPOON』長新太	2005	37.6 × 28.0	プレビジョン
367	『SPOON』と	2005	38.2 × 28.5	プレビジョン
368	『SPOON』驢馬	2008	41.0 × 34.1	プレビジョン
369	『ひそやかな花園』挿絵	2009	38.2 × 28.5	第 2 回、4 月 12 日、毎日新聞
370	『ひそやかな花園』挿絵	2009	38.4 × 26.8	第 20 回、8 月 16 日、毎日新聞
371	『ひそやかな花園』挿絵	2009	38.5 × 29.0	第 22 回、8 月 30 日、毎日新聞
372	『ひそやかな花園』挿絵	2010	38.5 × 28.5	第 47 回、3 月 7 日、毎日新聞

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
373	『ひそやかな花園』挿絵	2010	38.6 × 28.4	第53回、4月18日、毎日新聞
374	霧の流れる川 表紙、裏表紙	1998	30.4 × 41.5	作：岡田依世子、講談社
375	山のドローイング	2009	1点58.4 × 73.5、残り13点57.0 × 76.5	「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
376	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
377	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
378	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
379	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
380	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
381	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
382	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
383	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
384	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
385	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
386	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
387	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
388	山のドローイング	2009		「進める荒井良二のいろいろ展」世田谷文学館
389	『Hanako』No.22 目次イラスト	1988	21.2 × 26.9	11月3日号、マガジンハウス
390	『Hanako』No.27 「自分の住んでいる街を愛してんだ」イラスト	1988	19.6 × 27.0	11月17日号、マガジンハウス
391	『Hanako』No.142 目次イラスト	1991	20.0 × 27.1	4月11日号、マガジンハウス
392	『Hanako』No.142 「自分の住んでいる街を愛してんだ」イラスト	1991	19.9 × 27.1	4月11日号、マガジンハウス
393	『Hanako』No.145 目次イラスト	1991	19.9 × 27.0	5月2・9日号、マガジンハウス
394	『Hanako』No.147 目次イラスト	1991	19.8 × 27.0	5月23日号、マガジンハウス
395	『Hanako』No.148 目次イラスト	1991	19.7 × 27.0	5月30日号、マガジンハウス
396	『Hanako』No.197 「自分の住んでいる街を愛してんだ」イラスト	1992	19.6 × 27.1	5月28日号、マガジンハウス
397	『Hanako』No.201 目次イラスト	1992	19.6 × 27.1	6月25日号、マガジンハウス
398	『Hanako』No.211 目次イラスト	1992	19.9 × 27.1	9月10日号、マガジンハウス
399	『Hanako』No.213 目次イラスト	1992	19.9 × 27.0	9月25日号、マガジンハウス
400	『Hanako』No.217 目次イラスト	1992	19.9 × 27.0	10月22日号、マガジンハウス
401	(仮) OLIVE			
402	(仮) OLIVE			
403	(仮) OLIVE			
404	(仮) OLIVE			
405	(仮) OLIVE			
406	(仮) OLIVE			
407	(仮) OLIVE			
408	(仮) OLIVE			
409	(仮) OLIVE			
410	(仮) OLIVE			
411	(仮) OLIVE			
412	(仮) OLIVE			
413	『おおきなぼけっと』 6月号 表紙	1992	49.7 × 38.3	福音館書店
414	『おおきなぼけっと』 12月号 表紙	1992	53.7 × 43.3	福音館書店
415	『おおきなぼけっと』 2月号 表紙	1994	40.8 × 34.0	福音館書店
416	『おおきなぼけっと』 6月号 表紙	1994	40.0 × 33.9	福音館書店
417	モスバーガー 広告		32.0 × 25.3	
418	グループ・ばる「男と女の肖像」ポスター	1990	53.7 × 38.3	
419	日本著作権協会 広告	1991	76.1 × 55.7	

通し番号	作品名	制作（発行）年	サイズ	備考
420	三越 広告	1989	57.1 × 51.5	
421	アクリル板が	2010	96.0 × 66.2	「meta めた」 Foil Gallery
422	「いただきます」	2007	31.0 × 31.0	TIS 企画展「和のかたち 160 人のイラストレーターが描く日本」 クリエイションギャラリー G8
423	（仮）げんしくんスティック			
424	無題（ライブペイント）	2013	211.5 × 297.5	愛知県児童総合センター蔵
425	無題（ライブペイント）	2019	211.5 × 307.0	愛知県児童総合センター蔵
426	模写 一式			
427	ドローイング 一式			
428	（仮）手描き絵本			
429	（仮）手描き絵本			
430	（仮）手描き絵本			
431	（仮）手描き絵本			
432	（仮）手描き絵本			
433	（仮）手描き絵本			
434	ポーリングのピン			
435	わたしの夜の音 だれかの夜の音	2023		
436	（仮）マヒトゥ・ザ・ビーポー（ライブペイント）			
437	（仮）門の屏風			
438	（仮）お風呂の屏風			
439	（仮）学校嫌いとりょうじ			
440	（仮）旅する門			
441	逃げる子ども I	2010	130.0 × 162.0	「meta めた」 Foil Gallery

牛腸茂雄 写真展 “生きている” ということの証

3歳で胸椎カリエスを患い、生涯ハンディキャップとともに生き、「生きている」ということの証」として写真集の制作に力を注いだ写真家 牛腸茂雄（ごちょうしげお／1946-1983／新潟県生まれ）の写真展を開催。

本展では、牛腸が生前に制作した写真集『日々』（1971年）、『SELF AND OTHERS』（1977年）の収録作品や、未完に終わった『幼年の「時間（とき）」』の作品、さらに関連資料など239点を展示した。「姉への手紙」や「スケジュール帳」「写真集『SELF AND OTHERS』印刷指示入りのダミー本」など貴重な資料を数多く展示した牛腸

の写真展は過去になく、牛腸が追求し続けた「自分と世界との関わり」を探るまたとない機会となった。

また、関連イベントとして、桑沢デザイン研究所時代からの友人であり、牛腸の没後、その作品の管理を担当し、本展のモノクロ作品のプリントを手がけた写真家 三浦和人氏と、本展企画者 佐藤正子氏による対談「牛腸茂雄のまなざし」を開催。その他に、実技講座「写真家 三浦和人さんと一緒にいわきの街を撮ろう!」、当館学芸員による美術講座「展覧会の見どころ」を開催し、いずれも好評を博した。

会 期 2024年11月2日(土)～12月15日(日)

会 場 いわき市立美術館 企画展示室1、2

主 催 いわき市立美術館

出品協力 東京都写真美術館

※『日々』を借用展示予定であったが、当館の都合により展示しなかった。

企画協力 株式会社コンタクト

協 力 三浦和人、赤々舎

図 録 『牛腸茂雄全集』赤々舎、2022年 ISBN : 978-4-86541-157-7



●牛腸茂雄 写真展 “生きている” ということの証 出品リスト

No.	タイトル	撮影年等	技法	所蔵先他
■幼年期				
1	詩のノート	不詳	インク、写真の切り抜き	個人蔵
2	回想	不詳	インク	個人蔵
■桑沢デザイン研究所				
3	二眼レフカメラ：ミノルタオートコード	不詳		個人蔵
■こども				
4	<こども>	1967-68	ゼラチン・シルバー・プリント	個人蔵
■日々				
5-28	『日々 (1971 年刊 /24 点)』	1967-70	ゼラチン・シルバー・プリント	個人蔵
29	書籍 "Contemporary Photographers Toward A Social Landscape"	1966 年刊		個人蔵
30	『カメラ毎日』1968 年 6 月号	1968 年刊		個人蔵
31	「視園 = オールデイ・オールナイト」の案内状	1969		個人蔵
32	姉への手紙	1969 年 4 月 22 日付	インク、鉛筆	個人蔵
33	写真集『日々』	1971 年刊		三浦和人氏蔵
34	姉への手紙	1971 年 9 月 30 日付	インク、鉛筆	個人蔵
35	『New Life Style』1972 年 1 月号 (創刊号)	1972 年刊		個人蔵
■短編映画				
36	短編映画『まち』	1970		撮影：牛腸茂雄、寺本宗男、三浦和人 / 協力：MEM
37	短編映画『GameOver』	1975		撮影：牛腸茂雄、田中耕一、佐治嘉隆 / 協力：MEM
38	短編映画『TheGrassVisitor』	1975		撮影：牛腸茂雄、田中耕一、佐治嘉隆 / 協力：MEM
39	未編集フィルム	1978		撮影：牛腸茂雄 / 協力：MEM
40	映像『住吉荘の牛腸』	1971		撮影：佐治嘉隆 / 協力：MEM
No.	タイトル	撮影年等	技法	被写体
■SELF AND OTHERS				
41	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	新生児 (兄の長男・和行)
42	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	野原の少女
43	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	双子の少女 (井の頭公園)
44	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	インド人の親子 (入院先の東大医学部付属病院)
45	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	看護婦 (東大医学部付属病院)
46	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年 (調布飛行場)
47	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年 (代々木公園)
48	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	土屋夫妻 (桑沢デザイン研究所の友人)
49	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	長谷川夫妻 (桑沢デザイン研究所の友人)
50	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女 (東京都大田区田園調布・宝来公園)
51	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	映画『The Grass Visitor』に出演していた少女 (調布飛行場)
52	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	亀貝紘一郎氏 (アトリエ・ブロックの同僚、一級建築士)
53	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	越後谷夫妻 (東京・福生の米軍ハウス)
54	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女 (新潟県加茂市・実家の近所)
55	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年 (明大前のアトリエ・ブロック近く)
56	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	鈴木正喜氏 (桑沢デザイン研究所の友人)
57	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	松岡功氏 (桑沢デザイン研究所の友人)
58	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	大辻誠子夫人、写真家・児玉房子氏、関口正夫氏ら (軽井沢の大辻清司宅)
59	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	東京造形大学の学生たち

No.	タイトル	撮影年等	技法	被写体
60	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年(神奈川県・米軍座間キャンプ)
61	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女(米軍座間キャンプ)
62	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女(横浜イギリス館か)
63	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年(明大前のアトリエ・ブロックの近くで)
64	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	金子一夫氏一家(新潟県三条市・高校時代の下宿先)
65	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	金丸氏一家(小中学校の同級生)
66	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	双子の少年
67	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	兄の妻・幸とその長女・里美(新潟県加茂市)
68	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	兄の長男・和行と近所の子(新潟県加茂市)
69	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	兄の長女・里美(新潟県加茂市)
70	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	母・牛腸春江(新潟県加茂市)
71	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	父・牛腸寅平(新潟県加茂市)
72	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女
73	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	映画『The Gass Visitor』に出演していた少女(調布飛行場)
74	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	映画『Game Over』撮影中の少女(解体前のアトリエ・ブロック多摩川園事務所)
75	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	佐治嘉隆氏(桑沢デザイン研究所の友人/九十九里浜)
76	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	高松翼氏(桑沢デザイン研究所の友人)
77	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	高松夫人(下北沢のジャズ喫茶)
78	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年(明大前のアトリエ・ブロック近く)
79	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女(明大前のアトリエ・ブロック近く)
80	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	浅賀壮三夫妻(友人)
81	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	三浦和人氏(桑沢デザイン研究所の友人)
82	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女(アトリエ・ブロック多摩川園事務所近く)
83	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年(アトリエ・ブロック多摩川園事務所近く)
84	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	岡本夫妻(アトリエ・ブロック多摩川園事務所の大家さん)
85	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	片口安史夫妻(心理学者)
86	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	大辻清司の長女・みき氏(軽井沢)
87	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	大辻清司の次女・ちの氏
88	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	関口正夫氏(桑沢デザイン研究所の友人/京都二条城)
89	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女(明大前のアトリエ・ブロック近く)
90	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	姉・大桃春子と長男・敏明
91	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	田中氏一家(高校同級生)
92	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	後藤隆三氏(桑沢デザイン研究所の友人/自室)
93	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少女(神奈川県三浦市三崎町か)
94	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	少年(アトリエ・ブロック多摩川園事務所の近く)
95	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	映画『The Grass Visitor』に出演していた少女(調布飛行場)
96	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	海老原鋭二氏(桑沢デザイン研究所の友人)

No.	タイトル	撮影年等	技法	被写体
97	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	トンボとりをする少女(軽井沢)
98	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	家族写真(1952 年、6 歳の時、叔父が撮影した写真の複写)
99	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	セルフ・ポートレート
100	『SELF AND OTHERS』(1977 年刊)	1972-76	ゼラチン・シルバー・プリント	独立記念日か盆踊りの際の花火大会の夜(米軍座間キャンプ)
No.	タイトル	撮影年等	技法	所蔵先他
101	『闇の精』展のリーフレット	1975		個人蔵
102	作品集『扉をあけると』	1980 年刊		個人蔵
103	作品集『扉をあけると』ダミー本	1980 頃		個人蔵
104	『Ka-Ro Inkblot Plates』監修:片口安史	1970 年刊		個人蔵
105	『SELF AND OTHERS』の構想メモ	1972 頃	インク、鉛筆	個人蔵
106	姉への手紙 写真集	1976 年 11 月 1 日付	インク、鉛筆	個人蔵
107	『SELF AND OTHERS』ダミー本	1976-77 頃	鉛筆	個人蔵
108	写真集『SELF AND OTHERS』印刷指示入りのダミー本	1976-77 頃		個人蔵
109	写真集『SELF AND OTHERS』	1977 年刊		佐治いく子氏蔵
110	「もう一つの身振り展」案内ハガキ	1977		個人蔵
111	「牛腸茂雄写真展日本写真協会受賞記念展」案内ハガキ	1978		個人蔵
112	『Photography in Japan』1978 年 6 月号	1978 年刊		個人蔵
113	牛腸の蔵書			個人蔵
■見慣れた街の中で				
114-160	『見慣れた街の中で』(1981 年刊) /47 点	1978 年 4 月 - 1980 年 10 月	インクジェット・プリント	個人蔵
161-217	『見慣れた街の中で』全 47 点のオリジナル・ポジフィルム製の複製(デュープ・ポジ)			個人蔵
■幼年の「時間」				
218-223	<幼年の時間(とき)> /6 点	1983 頃	ゼラチン・シルバー・プリント	個人蔵
224	写真集『見慣れた街の中で』	1981 年刊		三浦和人氏蔵
225	『日本カメラ』1980 年 2 月号	1980 年刊		個人蔵
226	「見慣れた街の中で」展の案内状	1982		個人蔵
227	『横浜市都心プロムナード事業 1974-1976』	1978		個人蔵
228	『魅力ある都市づくり横浜市』	1978		個人蔵
229	『日本カメラ』1983 年 6 月号	1983 年刊		三浦和人氏蔵
230	1976 年の年賀状	1976		個人蔵
231	1977 年の年賀状	1977		個人蔵
232	1979 年の年賀状	1979		個人蔵
233	1980 年の年賀状(白黒の 2 種)	1980		個人蔵
234	1982 年の年賀状	1982		個人蔵
235	一眼レフカメラとレンズ			個人蔵
236	名刺			個人蔵
237	スケジュール帳			個人蔵
238	牛腸が愛用していたカバン			個人蔵
239	三浦和人《牛腸茂雄、30 歳の誕生日に》	1976	ゼラチン・シルバー・プリント	個人蔵

※「個人蔵」と表記している資料は全て牛腸茂雄のご遺族が所蔵しているものです。

令和6年度

いわき市小・中学生版画展プラスー版画の力

出品点数の減少により、昨年から小中学生の出品作品を企画展示室2のみを使った展示としたが、本年度も大きな出品点数の増加が見込めないことから引き続き小中学生の作品は企画展示室2での展示とし、企画展示室1では所蔵作品による小企画「木版画の力」を開催する計画で進めた。2会場をとおして鑑賞することで、子供たちの作品を目的とした来館者と小企画を目的とした来館者の興味の相乗効果による版画展の底上げを狙った取り組みの2年目である。

しかし、応募点数が増えることはなく、点数も展示面積も昨年より大幅に下回る結果となった。作品数の減少により企画展示室2は各学校の間隔を十分にとったメリハリのある展示となったが、この傾向は展覧会の存続そのものが危ぶまれる状況とも見える。企画展示室1の「木版画の魅力」では、木版画技法による国内外の

作品による「木版画の魅力」、微細な線描や色彩の表現が見どころの「木版画の妙」、大画面の上で個性を光らせる大型作品「木版画のダイナミズム」の3つのセクションで木版画の魅力を紹介した。来館者、特に学校関係者からは好意的な意見が寄せられた。

会期中に「春を祝うコンサート&パフォーマンス」、「わくわくアートスクール」、「かんたん！版画体験コーナー&版画の広場」など恒例の催しを開催し、定員を超える応募が寄せられるなど盛況であった。

会 期 2025年1月5日(日)～1月26日(日)

会 場 いわき市立美術館 企画展示室1、2

主 催 いわき市立美術館、いわき市教育委員会

協 力 いわき市小学校教育研究会図画工作部会
いわき市中学校教育研究会美術部会



■参加校及び出品点数

参 加 校	22校	小 学 校	14	
		中 学 校	5	
		特別支援	3	
出品点数	736点	小 学 校	432	内、共同作品23
		中 学 校	145	内、共同作品 1
		特別支援	159	内、共同作品11
参加者数	1,365人	小 学 校	1,002	
		中 学 校	148	
		特別支援	215	

■参加校一覧

【小学校】

平第一小学校
郷ヶ丘小学校
中央台南小学校
高久小学校
四倉小学校
久之浜第二小学校
小名浜第三小学校

小名浜東小学校

小名浜西小学校
泉北小学校
湯本第三小学校
磐崎小学校
川部小学校
いわき秀英小学校

【中学校】

中央台南中学校
小名浜第二中学校
泉中学校
磐崎中学校
田人中学校

【特別支援教育諸学校】

聴覚支援学校平校
平支援学校
いわき支援学校

●小企画「木版画の魅力」 出品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)
1	棟方志功	1903-1975	平市民会館緞帳原画 III	1965	木版・紙	21.5 × 60.5
2	棟方志功	1903-1975	平市民会館緞帳原画 IV	1965	木版・紙	23.5 × 64.0
3	ピエール・アレシンスキー	1927-	森の息子に 1	1973	木版・紙	50.0 × 60.0
4	ピエール・アレシンスキー	1927-	森の息子に 2	1973	木版・紙	50.0 × 60.0
5	F. フンデルトワッサー	1928-2000	夜の壁	1979	木版・紙	61.0 × 59.5
6	若松光一郎	1914-1995	昼下がりの象舎	1937	木版・紙	37.5 × 45
7	若松光一郎	1914-1995	題不明	制作年不明	木版・紙	28.5 × 47.3
8	李禹煥	1936-	関係項 A	1979	木版・紙	59.7 × 80.3
9	李禹煥	1936-	関係項 B	1979	木版・紙	60.0 × 81.0
10	野田哲也	1940-	日記 1980 年 2 月 2 日	1980	シルクスクリーン・木版・紙	79.0 × 42.5
11	野田哲也	1940-	日記 1980 年 6 月 25 日	1980	シルクスクリーン・木版・紙	83.5 × 42.7
12	斎藤清	1907-1997	凝視 (B)	1957	木版・紙	75.5 × 44.6
13	斎藤清	1907-1997	慈愛 (D)	1977	木版・紙	44.7 × 75.5
14	斎藤清	1907-1997	地の幸	1989	木版・紙	46.2 × 61.3
15	日和崎尊夫	1941-1992	KALPA-68-A-1	1968	木口木版・紙	22.5 × 26
16	日和崎尊夫	1941-1992	KALPA- '69	1969	木口木版・紙	20.5 × 28.0
17	日和崎尊夫	1941-1992	KALPA-H	1972	木口木版・紙	33.0 × 27.5
18	柄澤齊	1950-	肖像 II アルブレヒト・デューラー	1981	木口木版・紙	15.0 × 10.0
19	柄澤齊	1950-	肖像 VI マルセル・ブルースト	1983	木口木版・紙	10.0 × 15.0
20	柄澤齊	1950-	肖像 VIII ルカス・クラナッハ	1983	木口木版・紙	19.7 × 130
21	柄澤齊	1950-	肖像 XII 上田秋成	1983	木口木版・紙	25.0 × 12.3
22	黒崎彰	1937-	浄夜 W-50	1968	木版・紙	72.8 × 50.0
23	黒崎彰	1937-	浄夜 W-55	1968	木版・紙	72.6 × 50.0
24	丸山浩司	1953-	Downtown 78-B-3	1978	木版・紙	59.0 × 73.5
25	丸山浩司	1953-	Downtown 78-C-5	1984	木版・紙	53.0 × 86.0
26	両角修	1948-	No. 19	1973	木版・紙	66.0 × 170.0
27	秋山泰計	1927-1986	鳥をねらう猫を抱く少女	1976	木版・紙	84.0 × 43.0
28	秋山泰計	1927-1986	手品	1984	木版・紙	83.0 × 55.0
29	秋山泰計	1927-1986	夢の旅 II (象・鬼牡丹)	1985	木版・紙	90.0 × 185.0
30	秋山泰計	1927-1986	夢の旅 III (富士見逆さま)	1985	木版・紙	90.0 × 185.0
31	河内成幸	1948-	88 Flying 起・承・転・結	1988	木版・紙	161.5 × 365.8

ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美

映像作家の小森はるか、画家で作家の瀬尾夏美は、東日本大震災後にボランティア活動で東北を訪れたことを機にユニットとして活動を開始。以降、東日本大震災や令和元年東日本台風といった災害に見舞われた地域で、人々の語りと風景の記録を行い、対話の場を生み出す作品を制作・発表してきた。本展は、2011年以降に制作された3つのインスタレーションに新作を加え、これまでの活動を振り返る展示となった。

出品作「11歳だったわたしは」は、ユニットが近年全国各地で取り組んでいるプロジェクトである。本作は、「11歳前後の年齢で経験したことがその後の人生に影響を与える」という仮説のもと、異なる年に生まれた人びとに、11歳だった頃の記憶を中心に聞き、映像と文章で記録する作品。展覧会に先立ち、この作品のいわ

き編を制作するワークショップを実施した。参加者がいわきに暮らす人びとにインタビューし、作家の助言を受けながら映像の編集と聞き書きの文章を制作。完成した冊子と映像は『11歳だったわたしは いわき編』として展示の一部となった。

本展の準備中の2024年1月1日に能登半島地震が発生。ユニットは能登に赴き、そこで記録、制作された映像やスケッチが展示に組み込まれた。現在進行形で生まれる各地の災害にまつわる語りをいわきで紹介する意義深い展示となった。

会 期 2024年11月2日(土)～12月15日(日)
会 場 いわき市立美術館 1階ロビー
主 催 いわき市立美術館
助 成 公益財団法人朝日新聞文化財団
公益財団法人野村財団



撮影：白土 亮次

●小森はるか+瀬尾夏美 出品リスト

作品名	制作年	技法・材質
1 11歳だったわたしは	2021-2024	映像、サウンド、テキスト、資料
2 あわいゆくころ	2011-2024	テキスト、映像、サウンド、スケッチブック、鉛筆、色鉛筆、紙、水彩、アクリル、キャンバス
3 山つなみ／雨間の語らい	2021	写真、映像、サウンド、鉛筆、色鉛筆、紙、水彩、アクリル、テキスト、資料

第54回いわき市民美術展覧会

会期	書の部 2025年2月7日(金)～2月16日(日) 絵画・彫塑の部 2025年2月21日(金)～3月2日(日) 陶芸の部 2025年3月7日(金)～3月16日(日) 写真の部 2025年3月7日(金)～3月16日(日)
会場 主催	いわき市立美術館企画展示室およびロビー いわき市民美術展覧会運営委員会 いわき市教育委員会　いわき市文化協会 いわき市立美術館
後援	福島民報社　福島民友新聞社 いわき民報社　NHK福島放送局 ラジオ福島　福島テレビ　福島中央テレビ 福島放送　テレビユー福島　FMいわき
協力	いわき美術協会　いわき陶芸協会 いわき書道協会　いわきアート集団 いわき写真協会
審査員	書の部 芳賀二葉、滝翠嶺、臺麗子 (書家／市内在住) 絵画・彫塑の部 三浦明範（洋画家／千葉県在住） 陶芸の部 久米みどり（陶芸家／茨城県在住） 写真の部 福田健太郎（写真家、公益社団法人日本写 真家協会会員／東京都内在住）

- 書の部
一般応募115点（内、青少年49点）
展示点数137点（招待22点、遺作0点、一般115点）
- 絵画・彫塑の部
一般応募203点（内、青少年50点）
展示点数211点（招待8点、遺作0点、一般203点）
- 陶芸の部
一般応募73点（内、青少年0点）
展示点数85点（招待11点、遺作1点、一般73点）
- 写真の部
一般応募98点（内、青少年1点）
展示点数101点（招待3点、一般98点）

54回を迎えた今回の市美展では、運営を支える部会員（ボランティア）の負担軽減を目的として、従来の手書きによる作品名札をパソコン印刷に変更した。写真の部では以前から名札のパソコン印刷を導入していたが、今回はすべての部門で採用されることとなった。

一般出品者数は4部門合計で485点となり、昨年より5点減少した。一方、書の部では16点、絵画・彫塑の部では17点と青少年の出品が増加し、明るい話題となった。青少年の出品が増加した要因としては、学校の部活や授業で制作した作品を学校単位で出品されていることが影響している。全体として青少年の出品者数は増加しているが、青少年を除いた出品者数は全体的に減少傾向にある。人口減少や出品者の高齢化に加え、青少年を除いた新規出品者数の伸び悩みなど、市美展運営における課題が顕在化している。多くの人々に創作意欲を喚起し、市美展への出品を促す仕組み作りが今後の課題である。

来場者数は4部門合計で4,597人であり、昨年度より236人増加した。部門別では書の部と絵画・彫塑の部の来場者が増加し、陶芸と写真の部は減少した。書の部と絵画・彫塑の部の来場者増加の要因としては、青少年の出品作を観覧する家族の来場者が多かったこと、さらに「高校生による書道パフォーマンス」を2日間で3回行ったこと、書の部で講演会を開催したことなどが挙げられる。

[illegible]

書の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住所（大字まで公開）
いわき市長賞	五言律詩	山川榮雪	平
いわき市議会議長賞	三字句	齊藤福庵	郷ヶ丘
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	古今和歌集	西恵美子	四倉町
福島県報徳社賞	臨王鐸	田村萬里	中央台
遠藤一心堂賞	趙執信詩	山口瑞花	常磐上湯長谷町
キョー和賞	夏完淳詩	伊藤松茄	平赤井
株式会社風雅プランニング賞	丁仙芝詩	古和口瑛香	中岡町
〃	人間は	渡辺梨花	石塚町
ガスワン賞（常磐共同ガス株式会社）	七言律詩	高萩祥陽	泉町
ひまわり信用金庫賞	古今集のうた	石井京師	内郷綴町
とさわ会賞	李賀詩	柳田啓	中央台
有限会社朝日建工賞 《特別賞》	臨米芾	比佐恒翠	小名浜
青少年賞（いわき書道協会賞）	臨張猛龍碑	渡部愛加	平北白土
青少年賞（遠藤一心堂賞）	臨寸松庵色紙	高木優華	渡辺町松小屋
青少年賞（富士川新社賞）	臨風信帖	星野美姫	常磐下湯長谷町
青少年賞（有限会社朝日建工賞）	王維詩	清野笑日	平

※審査員はいわき市民美術展覧会運営委員会での推薦をもとに決定され、三賞および佳作等は審査員が選考します。

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とします。

絵画・彫塑の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住所（大字まで公開）	部門
いわき市長賞	MIRROR	田仲凜太郎	中央台	絵画
いわき市議会議長賞	母と見る景色	相馬亮	宮城県名取市美田園	絵画
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	岩陰	佐藤善江	平中神谷	絵画
いわき商工会議所会頭賞	モンスターアニマルズ	古川幹	福島市松川町関谷	絵画
いわき市文化協会会長賞	混沌の祈り	江尻敏昭	郷ヶ丘	絵画
福島県報徳社賞	祈る平和	佐久間静子	常磐上湯長谷町	彫塑
〃	Landscape	十時宏之	平	絵画
〃	何回目の初めて	先崎ひより	中央台	絵画
〃	孤独と時間の性質その事実の意味	四家友幸	中央台	彫塑
有限会社トーカイ賞	harmony	遠藤千絵	平馬目	絵画
株式会社箱崎美術広告社賞	群衆の中の孤独と時間の性質	四家友幸	中央台	絵画
椿屋賞	コンピラサマ	吉田博道	小川町柴原	絵画
昭文堂賞	静寂の音	山口典子	内郷綴町	絵画
〃	無強福	鈴忠壽	鹿島町走熊	絵画
坂本紙店賞	記憶の一片	関根知風	中央台	絵画
ギャラリー磐城賞	FLOWER 2025. 2. A	渡辺啓	四倉町	絵画
アートスペース泉賞	文具鳥	須田遥永	常磐西郷町	絵画
ガスワン賞（常磐共同ガス株式会社）	朝霧	吉田弘伸	平	絵画
ひまわり信用金庫賞	来し方の隙間	佐藤沙月	常磐西郷町	絵画
《特別賞》				
青少年（アートスペース エリコーナ）賞	この手をひきよせて	岩城愛	常磐関船町	絵画
青少年（A氏）賞	水中の奇跡	梅松蒼花	泉町	絵画
青少年奨励（X）賞	MIRROR	田仲凜太郎	中央台	絵画

※審査員はいわき市民美術展覧会運営委員会での推薦をもとに決定され、三賞および佳作等は審査員が選考します。

※青少年賞は、20歳未満の出品者が対象となります。

※青少年奨励(X)賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与されます。

陶芸の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住所（大字まで公開）
いわき市長賞	蛙付角瓶花入	遠藤靖典	平豊間
いわき市議会議長賞	白蛇傘立て	正木緑子	平中山
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	気儘に	増井やよい	平
いわき市文化協会会長賞	交わらない2人	稲葉一実	小名浜岡小名
福島県報徳社賞	私の好きな動物たち	菅野博子	泉玉露
いわき陶芸協会賞	御影象嵌花器	阿部新一	錦町
ギャラリー磐城賞	春の装い	遠藤文夫	平下神谷
アートスペース泉賞	花遊び	菊田君江	小川町柴原
ガスワン賞（常磐共同ガス株式会社）	磐城筒茶碗「荒磯」	山崎淳司	田人町南大平
ひまわり信用金庫賞	大空へ	緑川法子	勿来町
ギャラリー木もれび賞	猫のランブライト	岩田光枝	平赤井

※審査員はいわき市民美術展覧会運営委員会での推薦をもとに決定され、三賞及び佳作等は審査員が選考します。

写真の部 入賞者

賞 名	作品名	作家名	住所（大字まで公開）
いわき市長賞	清流のコラボレーション	富岡榮子	内郷高坂町
いわき市議会議長賞	熱演	丹野孝	桜ヶ丘
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	とべ、遠くへ	久田キヨ子	平南白土
いわき市文化協会会長賞	そこにある物体	志賀幸雄	埼玉県川越市三光町
福島県報徳社賞	未来ヘジャンプ	新妻美宏	平中平窪
有限会社トーカイ賞	初夏	石森文夫	小名浜林城
社団法人 いわき観光まちづくりビューロー賞 〃	スター お通り～ ちょうちん祭り	門林泰志郎 根本隆意	小名浜 内郷御台境町
福島県写真館協会いわき支部賞	心のこり	黒澤泰弘	平下平窪
昭文堂賞	賢者の風格	小澤令子	小名浜下神白
東日本国際大学賞	R7「K子」	松本富美雄	勿来町
YK写真工房賞	農婦	佐渡谷亜夫	常磐上湯長谷町
カメラの矢吹賞	光環	今泉弘	小川町上平
いわき写真協会賞	すばらしい群青の空	平沢ミチ子	錦町
ガスワン賞（常磐共同ガス株式会社）	厳冬の月照	江名国夫	小名浜
ひまわり信用金庫賞	水面の光跡	比佐勇	常磐上湯長谷町
ハニーズ賞（株式会社ハニーズホールディングス） 〃	提灯祭り 幽幻	森谷祐治 酒井和重	鹿島町船戸 平

※審査員はいわき市民美術展覧会運営委員会での推薦をもとに決定され、三賞及び佳作等は審査員が選考します。

普及事業 移動美術館

市内の公民館や学校などとの相互交流や連携により美術館活動の幅を広げ、美術や美術館への興味を広げる。学芸員が講師となり、実技・工作、美術講座などを展開。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
12月6日(金)	当館学芸員	総合教育センターチャレンジホーム「切り絵をつくろう!」 A 5サイズの黒い画用紙をカッターナイフで切り抜いて図柄や模様を表現する切り絵を制作。好みの色画用紙の上に重ね、作品を完成させた。いわき市総合教育センターとの共催。	いわき市総合教育センター

普及事業 講演会

企画展などの鑑賞の一助として、専門の講師を招聘した講座。出品作家、研究者、識者、活動家など、多岐にわたる講師陣を迎えて開催した。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
4月28日(日)	布施英利 (芸術学者／批評家)	現代アートの美術館 いわき市立美術館所蔵品の魅力 「開館40周年記念 秘密の花園—いわき市立美術館所蔵品展」の関連事業として、本展図録にも寄稿いただいた布施英利氏による講演会を開催。本展出品作について自身の体験とも結びつけ、ときにユーモアを交えて講演し、参加者からも現代美術と親しむ機会となったという声が寄せられた。	セミナー室
6月2日(日)	小泉晋弥 (茨城県天心記念五浦美術館館長)	美術館のレガシー 40年で見てきたこと 「開館40周年記念 秘密の花園—いわき市立美術館所蔵品展」の関連事業として、元当館の学芸員でもある小泉晋弥氏による講演会を開催。岡倉天心の思想を引用しながら日本の美術や美術館の在り方についてお話しいただいた。	セミナー室
6月22日(土)	石本藤雄(出品作家、テキスタイルデザイナー)、平井千里馬(スコープ代表)	開幕記念対談「フィンランドの記憶」 企画展「フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン」関連の催し。マリメッコ社で30年以上デザイナーを務めた石本氏と、展覧会に多くのビンテージ品をお貸出いただいたオンライン・ショップ、スコープの代表平井氏の記念対談。展示品にまつわる知られざるエピソードを多数披露いただき、貴重な機会となった。	いわき市文化センター 1階 大講義室
6月29日(土)	和田菜穂子 (建築史家・博士(学術)／東京家政大学准教授／一般社団法人東京建築アクセスポイント代表理事)	講演会「フィンランドの住まいとデザイン」 企画展「フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン」関連の催し。北欧建築の専門家である建築史家、和田菜穂子氏に、フィンランドの建築家、アルヴァ・アアルトについてお話しいただいた。建築事例を豊富な写真とともに紹介いただき、建築家としてのアアルトの功績への理解が深まる講演会となった。	セミナー室
10月6日(日)	荒井良二 (出品作家・アーティスト)	アーティストトーク「いつも しらないところへ たびするきふんだった」 「new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきふんだった」関連事業。作家が自作を前に、展覧会への思い、作品が生まれた背景やエピソードなどを語った。参加者からもたくさんの質問が寄せられ、そのすべてに丁寧に答えていた。	2階ロビー、 企画展示室



講演会「フィンランドの住まいとデザイン」



アーティストトーク「いつも しらないところへ たびするきふんだった」①



アーティストトーク「いつも しらないところへ たびするきふんだった」②

開催日	講師	講座名(内容)	会場
11月2日(土)	三浦和人 (写真家)、 佐藤正子 (牛腸展企画者)	対談「牛腸茂雄のまなざし」 牛腸展の企画者である佐藤氏が用意した牛腸茂雄の作品や関連資料をプロジェクターで投影し、それにまつわるエピソードを三浦氏が説明した。三浦氏が牛腸茂雄と桑沢デザイン研究所で出会い、大辻清司のもとで写真を学んだことや、当時牛腸茂雄が影響を受けていた写真家など、これまで知られていなかった事実が詳しく語られた。	セミナー室

普及事業 美術講座

展覧会鑑賞の一助として、また、様々な美術の情報の提供を目的として当館学芸員が講師となり開催。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
①4月29日(月・祝) 当館学芸員 ②5月4日(土) ③5月6日(月・祝) ④5月11日(土) ⑤5月18日(土) ⑥5月19日(日) ⑦6月1日(土)		学芸員、私のイチオシ 「開館40周年記念 秘密の花園—いわき市立美術館所蔵品展」の関連事業として、当館の7名の学芸員がそれぞれの専門や関心に基づき、展覧会出品作について解説する美術講座を開催した。参加者からはそれぞれの学芸員の個性が出た解説を評価する声や定期的な開催を望む声があった。	セミナー室
7月14日(日) 当館学芸員		「展覧会の見どころ」(フィンランドのライフスタイル) スライド資料を用いて、企画展「フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン」の内容を解説する講座。主要作家の解説に加えて、フィンランドのグラフィックの歴史を紹介した。	セミナー室
8月1日(木) 当館学芸員		ティーチャーズミュージアム 市内の幼稚園・保育所から高校までの教職員の希望者を対象に、常設展、9月以降の企画展の紹介、簡単な制作体験、意見交換を行う。	セミナー室
11月10日(日) 当館学芸員		「展覧会の見どころ」(牛腸茂雄写真展) 「牛腸茂雄写真展“生きている”ということの証」 関連事業。牛腸茂雄のプロフィール、各写真集の見どころ、手紙などの関連資料を通じて、牛腸作品の特徴や彼の人となりについて詳しく解説する。	セミナー室

普及事業 ギャラリートーク

作品鑑賞の一助として、常設展では毎週土曜日に定期開催。企画展では、土曜日、日曜日を中心に開催。また、団体などの要望に応じて随時開催した。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
毎週土曜日等 (31回)	当館学芸員	常設展ギャラリートーク	常設展示室
11月2日(土) 小森はるか+ 瀬尾夏美 (アートユニット)		「ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美」アーティスト・トーク ニューアートシーン・イン・いわき出品作家による展示解説。ユニットの活動のきっかけから、各作品の制作テーマ、制作におけるエピソードを紹介いただいた。災害をテーマにしている作品であるだけに、作家の話に大きくうなずきながら聞く参加者も見られ、質疑応答では活発な議論が交わされた。	1階ロビー



対談「牛腸茂雄のまなざし」



「ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美」アーティスト・トーク



『11歳だったわたしは いわき編』ワークショップ ①

開催日	講師	講座名(内容)	会場
1月25日(土)	当館学芸員	みんなあつまれ!おしゃべり版画展 小中学生の出品作品の中の気になる作品について参加者同士で話をしながらゆっくりと鑑賞。その後、「木版画の魅力」について紹介、各作品についての説明を行った。少人数での開催であったが参加者の活発な発言や質問があり、時間をオーバーしての催しとなった。	企画展示室
通年、随時 (24回)	当館学芸員	団体解説 企画展、常設展の団体鑑賞につき、要望に応じて随時開催	常設展示室、 企画展示室

普及事業 ワークショップ

現代美術作家などを中心に、参加者が表現における思考のプロセスや作品の創作を共同作業でおこない、表現することの楽しさを体験しつつ美術に対する理解を深めていくプログラム。企画展に併せて、また収蔵作家ワークショップなど独自の企画により多角的に開催した。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
7月20日(土)、 7月21日(日)、 8月10日(土)、 8月12日(月・祝)	小森はるか+ 瀬尾夏美 (アートユニット)	『11歳だったわたしは いわき編』ワークショップ 企画展「ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美」にむけ、ユニットとともに『11歳だったわたしは いわき編』を制作するワークショップ。7月のレクチャーやグループワークによる準備ののち、参加者は8月に計13名のいわき市民の語り手にインタビューを実施。その後オンラインで作家の指導を受けながら、聞き書きの執筆、映像の編集を進め、作品を完成させた。	セミナー室 ほか
8月3日(土)、 8月4日(日)	当館学芸員	美術館的自由研究ノススメ2024 美術館のバックヤード、企画展・常設展を見学し、館内で自分なりの課題やテーマを見つけ、各自制作や研究をすすめる。最終日に研究内容や制作物を全員が他の参加者や保護者の前で発表した。	実技講習室、 展示室、図書 室など
8月11日(日)	あだちようこ (ヒンメリ作家)	光のモビール ヒンメリを作ろう 企画展「フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン」関連の催し。麦に糸を通して編み上げるフィンランドの伝統装飾ヒンメリ。ヒンメリ作家の指導のもと、ストローを材料に基本の形を作るワークショップ。小中学生向けの「パステルカラー」コース、中学生以上向けの「ナチュラルカラー」コースを設け、計33名の参加者が初めてのヒンメリ制作を楽しんだ。	実技講習室
9月14日(土)	荒井良二 (出品作家・アー ティスト)、 宮本武典 (キュレーター、 東京藝術大学准教 授)	荒井良二と物語を汲み出す人 「new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった」関連事業。まずセミナー室で、荒井氏と宮本氏によるこれまでの活動等のレクチャーを受けた後、2人の案内で展覧会を鑑賞。続いて、参加者が新作インスタレーションの中から作品を1点選び、物語の初稿を執筆。初稿をもとに荒井氏が参加者に対しフィードバックを行ったのち、各々が原稿を完成させた。最後に、参加者が作品の前で自作を発表し、原稿を展示した。	セミナー室、 企画展示室



『11歳だったわたしは いわき編』ワークショップ
②



「フィンランドのライフスタイル」 光のモビール
ヒンメリを作ろう



「new born 荒井良二」 荒井良二と物語を汲み出す
人①

開催日	講師	講座名(内容)	会場
12月15日(日)	小森はるか+ 瀬尾夏美 (アートユニット)、 ワークショップ参加者	『11歳だったわたしは いわき編』ワークショップ報告会 「ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美」関連の催し。展覧会に先立って7月～10月にワークショップ形式で開催した『11歳だったわたしは いわき編』制作を振り返る報告会。ユニットに加えてワークショップ参加者が登壇し、成果物である聞き書きの朗読、映像作品の上映に加え、来場者参加型の聞き書き読書会のグループワークを行った。ワークショップにご協力を賜った語り手の方も来場し、和やかな雰囲気の報告会となった。	セミナー室
1月5日(日)～ 1月26日(日)	当館スタッフ	かんたん！版画体験コーナー&版画の広場 版画展恒例の催し。昨年に引き続きカーボン紙紙版画でのカードづくりを大人から子どもまで多くの人が体験した。仕上げた作品を展示する「版画の広場」(ダウン・ギャラリー)は、日に日に作品が増え展覧会に賑わいを添えていた。	2階ロビー
1月18日(土)、 1月19日(日)	江本創 (現代美術家)	わくわくアートスクール「幻の化石大発見！アートな化石標本箱をつくろう」 石こうを使って自分が想像した幻の生きものの化石づくりに挑戦し、自作の幻の生きものの名前や生態を考えた。	実技講習室

普及事業 実技講座

さまざまな分野の作家を招き、普段なかなか体験する機会がない技法や表現方法を学びながら自身の表現へと繋げ、制作の可能性を広げることを目的に実施。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
11月17日(日)	三浦和人(写真家)	「写真家三浦和人さんと一緒にいわきの街を撮ろう！」 写真家三浦和人氏と中央公園、アリオス、いわき駅周辺を歩きながら、普段何気なく見ている景色をスナップ撮影する。参加者は撮影した画像の中から10点を選び、三浦氏がそれらの写真を穏やかかつ情熱的に講評。参加者にとって充実した学びの時間となり、高い評価を得た。	セミナー室、 美術館・ いわき駅周辺

普及事業 公開制作

作家の制作過程を広く公開することにより、素材や技法、作家独自の作品論などを身近に見聞できる機会を提供する目的で開催。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
9月7日(土)	荒井良二 (出品作家・アーティスト)	荒井良二によるオープニング・ペインティング 「new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった」関連事業。展示什器に取り付けたペニヤ板(全長約15m)に、荒井良二が主にアクリル絵具を使って即興で絵を描いた。荒井は、終始観客と会話しながら制作を続け、一部は参加したこどもたちと一緒に描くなど、当館ならではの作品を仕上げた。	2階ロビー



「new born 荒井良二」 荒井良二と物語を汲み出す人②



『11歳だったわたしは いわき編』ワークショップ報告会



わくわくアートスクール「幻の化石大発見！アートな化石標本箱をつくろう」

普及事業
映像鑑賞会

企画展に関連した映像作品や、美術的に優れたアニメーション作品を上映している。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
7月6日(土)、 7月7日(日)		映画鑑賞会「アアルト」 「フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン」関連企画。出品作家であるアアルト夫妻のドキュメンタリー映画を上映した。同映画は全国巡回が終わったばかりというタイミングもあり、遠方からの来場者もあった。全4回の上映で92人の参加があり、映画への関心の高さが窺えた。	セミナー室
3月20日(木・祝)		春分の日映画会「ウルフウォーカー」 トム・ムーア、ロス・スチュアート監督、2020年公開のアイルランドのアニメーション映画「ウルフウォーカー」を上映。1650年、アイルランドの町キルケニーを舞台に、少女ロビンと、「ウルフウォーカー」の少女メーヴとの出会い、そして森を巡る人間とオオカミの闘いを描き、アカデミー賞長編アニメーション賞にノミネートされた作品。	企画展示室2

普及事業
コンサート & パフォーマンス

時代とともに多様化する芸術表現を企画展、常設展と関連づけながら多角的に紹介する事業。美術館という環境ならではの特性を生かしながら、美術と異ジャンルとの積極的なかわりが生み出す相乗効果を体感できる機会提供を心がけている。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
5月5日(日)	ピアリコ (藤原潤子、 伊藤直子)	ピアリコ コンサート～楽しくなければ、音楽じゃない 「開館40周年記念 秘密の花園ーいわき市立美術館所蔵品展」の関連事業として、ピアノカトリコーダーによるユニット「ピアリコ」の2人による公演を開催。馴染み深い楽器の意外な演奏法も披露し、参加者の目を惹いた。	1階ロビー
5月12日(日)	リベルラス・ロハス (深谷恵子、 鈴木陽子、 松平ふみえ、 石川了三)、 松崎康弘	フラメンコともう一つのスペイン音楽 「開館40周年記念 秘密の花園ーいわき市立美術館所蔵品展」の関連事業として、地元フラメンコ・グループのリベルラス・ロハスとギタリストの松崎康弘氏による公演を開催。歌、踊り、ギターでスペインの音楽を披露した。	1階ロビー
5月26日(日)	小沼裕一、 松崎康弘、 関志路充和	フルート&ギター 同時代の音楽 「開館40周年記念 秘密の花園ーいわき市立美術館所蔵品展」の関連事業として、フルート奏者の小沼裕一氏、ギタリストの松崎康弘氏、パーカッショニストの関志路充和氏による公演を開催。三つの楽器で現代を演奏した。	2階ロビー
1月13日(月・祝)	神永大輔、 関屋茉莉子、 紺野裕子	春を祝うコンサート&パフォーマンス 尺八とフルートの饗宴 尺八とフルート、ピアノによる演奏会。和楽器である尺八で現代的な演奏を行う等、楽器の魅力を伝えるバラエティー豊かな音楽を披露した。	1階ロビー



「写真家三浦和人さんと一緒にいわきの街を撮ろう!」①



「写真家三浦和人さんと一緒にいわきの街を撮ろう!」②



「new born 荒井良二」荒井良二によるオープニング・ペインティング①

普及事業 出版

●THE GALLERY いわき市立美術館ニュース

当館のニュースとして「THE GALLERY」を2回発行した。

No. 78 (2024年9月10日発行)

マットコート四六判 6ページ

- ・特集—アートマップ「てくてく彫刻マップ」と未掲載作品について (学芸員 鈴木彩乃)
- ・企画展紹介 new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった (副館長兼学芸課長兼学芸係長 竹内啓子)
- ・企画展紹介 牛腸茂雄 写真展“生きている”ということの証 (学芸員 江尻英貴)
- ・企画展紹介 ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美 (学芸員 徳永祐樹)
- ・常設展示室から (学芸員 伊藤圭一郎)
- ・今後の主な展覧会のご案内

No. 79 (2025年3月30日発行)

マットコート四六判 6ページ

- ・企画展紹介 谷川俊太郎 絵本★百貨展 (学芸員 鈴木彩乃)
- ・企画展紹介 日本の巨大ロボット群像—巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現— (副館長兼学芸課長兼学芸係長 竹内啓子)
- ・特集—作品の収蔵方法について (館長 杉浦友治)
- ・追悼、田口安男先生 (館長 杉浦友治)
- ・常設展示室から (学芸員 伊藤圭一郎)
- ・学芸員ノート (館長 杉浦友治)
- ・今後の主な展覧会のご案内



●いわき市立美術館年報

令和5年度年報 B5判 66ページ

●展覧会図録等

開館40周年記念 秘密の花園 いわき市立美術館所蔵品展 B5判 152ページ

ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美 パンフレット A4判観音折り

普及事業 実技講習室 の公開

実技講座参加者やそれに準ずる個人に実技講習室や備品を開放。リトグラフ制作などで利用があった。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
4月～		実技講習室の公開 実技講座参加者やそれに準ずる個人による制作のために実技講習室を開放。担当者が備品の保管場所や注意事項等を説明し、各々で制作に取り組んだ。	実技講習室



「new born 荒井良二」荒井良二によるオープニング・ペインティング②



「秘密の花園」ピアリコ コンサート～楽しくなければ、音楽じゃない



「秘密の花園」フラメンコともう一つのスペイン音楽

普及事業
図書室の公開

開館時間(午前9時30分から午後5時まで。7・8月の金曜日は午後8時まで)にあわせ、室内での閲覧に限り図書室を公開。展覧会図録など公開していない資料についても利用者の申し出があれば閲覧可能。貸出業務は行っていない。

普及事業
実習生の受け入れ

■博物館実習

7月30日(火)から8月9日(金)にかけて、静岡文化芸術大学、日本大学、東北芸術工科大学、山形県立米沢女子短期大学より学芸員資格取得をめざす4名の実習生を受け入れ、10日間の日程で学芸業務に関する講義・実習を行った。

■職業体験

美術館の仕事を理解し、体験を通じて働く意義や責任を学び、適切な職業観を育てることを目的に、4つの中学校より生徒9名を受け入れ、施設見学、展覧会の監視体験、展示作業体験などを実施した。

開催日	講師	学校(参加人数)	会場
9/12(木)	当館学芸員	赤井中学校(2名)	館内
9/18(水)	当館学芸員	平第二中学校(3名)	館内
9/19(木)	当館学芸員	草野中学校(3名)	館内
9/27(金)	当館学芸員	平第一中学校(1名)	館内

普及事業
バーチャルミュージアム

展覧会会場をインターネット上で公開。

開催日	講師	講座名(内容)	会場
1月5日(日)～ 1月26日(日)	布施雅彦 (福島高専准教授)	360° バーチャルミュージアム 「いわき市小・中学生版画展プラスー版画のカー」 展覧会の開幕時から通年配信。学校や家庭で展覧会の様子を視聴するほか、作品作りの参考として利用しているとの例もあった。	当館ホームページ上

普及事業
共催事業

開催日	講師	講座名(内容)	共催先	会場
企画展関連「展覧会を楽しむ鑑賞講座」 市内公共施設との共催で行う連続講座。学芸員が、スライドなどを使って展覧会の見どころを紹介する				
5月14日(火)	当館学芸員	飯野公民館市民講座「アートの楽しみ方in美術館」 秘密の花園	飯野公民館	会議室、 セミナー室、 企画展示室
7月9日(火)	当館学芸員	フィンランドのライフスタイル		



いわき市立美術館×いわき芸術文化交流館アリオス連携事業
『二重のまち/交代地のうたを編む』上映会+アフタートーク



市美展書の部「石川大濠講演会『書・画と文房具の話』①



市美展書の部「石川大濠講演会『書・画と文房具の話』②

開催日	講師	講座名(内容)	共催先	会場
10月8日(火)	当館学芸員	new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった		
11月12日(火)	当館学芸員	牛腸茂雄 写真展“生きている”ということの証		
12月3日(火)	当館学芸員	ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美		
		中央公民館市民講座「アートに触れるin美術館2024」	中央公民館	セミナー室、企画展示室
5月16日(木)	当館学芸員	秘密の花園		
7月18日(木)	当館学芸員	フィンランドのライフスタイル		
10月3日(木)	当館学芸員	new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった		
11月21日(木)	当館学芸員	ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美		
12月5日(木)	当館学芸員	牛腸茂雄 写真展“生きている”ということの証		
		鹿島公民館市民講座「市立美術館を楽しむ」	鹿島公民館	セミナー室、企画展示室
5月23日(木)	当館学芸員	秘密の花園		
7月10日(水)	当館学芸員	フィンランドのライフスタイル		
10月9日(水)	当館学芸員	new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった		
11月13日(水)	当館学芸員	牛腸茂雄 写真展“生きている”ということの証		
12月4日(水)	当館学芸員	ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美		
		中央公民館市民講座「ことぶき文化学園」	中央公民館	中央公民館大講義室、美術館企画展示室
7月3日(水)	当館学芸員	フィンランドのライフスタイル 暮らしを豊かにするデザイン		
10月11日(金)	当館学芸員	草野公民館市民講座「街なか散歩で彫刻めぐり」 いわき駅前から美術館周辺の彫刻作品を紹介するアートマップ「てくてく彫刻マップ」を活用し、駅前から美術館周辺を散策しながら実際の彫刻の鑑賞、解説を行った。	草野公民館	美術館敷地内、駅前大通り
10月22日(火)	当館学芸員	市内小学校教員を対象とした版画および鑑賞研究会 カーボン紙紙版画の実技体験と鑑賞用補助教材(ART CUBE)を使った常設展鑑賞体験を行い、美術館および版画への興味をひき出し、次年度以降の「小・中学生版画展」への出品の動機付けとなることを期待して開催。	いわき市小学校教育研究会図書工作部	セミナー室、実技講習室、常設展示室
11月16日(土)	当館学芸員	福島県教育センター自主講座「美術館でアートを楽しむ鑑賞講座」 県内の教職員を対象に、美術館を活用した研修を実施。美術担当指導主事と学芸員が講師となり、美術館の設立趣旨についての講義を行ったほか、授業で美術館を活用するためのアートカードを用いたワークショップやタブレットを活用した鑑賞指導の説明、対話型鑑賞の演習などを実施した。	福島県教育センター	セミナー室、常設・企画展示室
12月15日(日)	小森はるか+瀬尾夏美 (アートユニット)	いわき市立美術館×いわき芸術文化交流館アリオス連携事業『二重のまち／交代地のうたを編む』上映会+アフタートーク いわき芸術文化交流館アリオスとの連携事業。企画展「ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美」に合わせて、小森はるか+瀬尾夏美が監督として2019年に制作した映像作品の上映とアフタートークを開催。本作品はいわきでは初の上映となった。作家、映画に対して関心の高い参加者が多く、アフタートークでは鋭い質問も飛び出し、活発な議論の場となった。	いわき芸術文化交流館アリオス	いわき芸術文化交流館アリオス小劇場



市美展書の部「審査員による作品解説会」



市美展書の部「高校生による書道パフォーマンス」
(いわき秀英学園書道部) ①



市美展書の部「高校生による書道パフォーマンス」
(いわき秀英学園書道部) ②

開催日	講師	講座名(内容)	共催先	会場
2月9日(日)	芳賀二葉、 滝翠嶺、臺麗子	市美展書の部「審査員による作品解説会」 書の部審査員の3人が、参加者が希望する作品について解説を行った。	市美展書の部	書の部会場
2月9日(日)	石川大遼 (書家)	市美展書の部「石川大遼講演会『書・画と文房具の話』」 書・画と文房具について、石川氏所有の墨、硯、印材、筆などの実物を提示しながら解説。書の道具・材料の質を見極め、使いこなしていくことの重要性について説明された。	市美展書の部	1階ロビー
2月11日(火・祝)	いわき秀英学園 書道部	市美展書の部「高校生による書道パフォーマンス」 いわき秀英中学校・高校書道部による書道パフォーマンス	市美展書の部	2階ロビー
2月16日(日)	磐城高等学校書 道部、磐城桜が丘 高等学校書道部	市美展書の部「高校生による書道パフォーマンス」 磐城高等学校書道部、磐城桜が丘高等学校書道部による書道パフォーマンス	市美展書の部	2階ロビー
2月22日(土)	絵画・彫塑の部 招待作家	市美展絵画・彫塑の部「招待作家による入選作品批評会」 希望する出品者に、招待作家から作品批評を行った。7人の希望者に対して、5人の招待作家それぞれから講評を伝えた。	市美展絵画・ 彫塑の部	絵画・彫塑 の部会場
3月8日(土) 3月9日(日) 3月15日(土) 3月16日(日)	陶芸の部部会員	市美展陶芸の部 作品解説 会場に部会員が常駐し、来館者に陶芸の技法など作品について解説。	市美展陶芸 の部	陶芸の部会 場
3月9日(日) 3月16日(日)	陶芸の部部会員	市美展陶芸の部「タッチコーナー」の開設 陶芸の部部会員が作品を持ち寄り、来館者に触れてもらいながら解説する。	市美展陶芸 の部	陶芸の部会 場
3月9日(日)	上遠野真人、 増井治	市美展写真の部「招待作家による作品解説会」 招待作家の2人が、受賞作品を中心に審査員の講評を伝えつつ、解説を行った。また、希望する参加者の作品や講師の自作についても語った。	市美展写真 の部	写真の部会 場
毎月2回	山本伸樹 (現代美術家)	美術館友の会「デッサン教室」 美術館友の会との共催事業。土曜クラスと日曜クラスの参加者たちは、毎月1回、集中して課題に取り組み、それぞれにデッサンの技術を向上させた。	いわき市立 美術館友の 会	セミナー室



市美展絵画・彫塑の部「招待作家による入選作品批評会」①



市美展絵画・彫塑の部「招待作家による入選作品批評会」②

所 蔵 資 料

美術作品収蔵状況

年度	購 入		寄 贈		移管 点数	計 点数	寄 託	
	点数	備 考	点数	備 考			点数	備 考
昭55年	68		10		0	78	1	一色智嘉子《CHU》
56	115		337	宝船312点	0	452	1	大平華泉《白河城址》
57	75		26		0	101		
58	357		67	資料 3 点含む	5	429		
59	54		27		4	85		
60	53		37		0	90		
61	23		105		7	135		
62	7		22		0	29		
63	21		8		0	29		
平成元	11		9		2	22	2	北郷悟《ERA》《寝台に横たわる人》
2	17		28	資料 2 点含む	0	45	49	
3	10		5		0	15	1	舟越桂《静かな奇襲》
4	9		9		0	18		
5	9		0		0	9		
6	5		4		0	9		
7	7		4		0	11		
8	7		2		0	9		
9	11		1		0	12	12	田口安男
10	28		6		0	34		
11	8		37		0	45	-43	松田松雄 5 点及び中村一美 1 点《道元》また H 2 年度寄託作品49点返却
12	11		23		0	34		
13	8		22		0	30	-1	中村一美《道元》(同年受贈)
14	8		1		0	9		
15	12		42		0	54	2	中村一美《織桑鳥 V》《北奥千丈》
16	33		13		0	46		
17	17		8		0	25		
18	3		1		0	4		
19	0		3		0	3	-1	大平華泉《白河城址》(返却)
20	0		30		0	30	14	イクムラレイコ13点、河口龍夫 1 点
21	0		1		0	1		
22	0		0		0	0		
23	0		40	資料 9 点含む	0	40	-12	田口安男作品(平成 9 年度寄託作品受贈)
24	0		116		0	116		
25	0		18		0	18		
26	0		22		0	22	-1	中村一美《北奥千丈》(返却)
27	0		14		0	14		
28	0		157		0	157		
29	0		29		0	29		
30	0		22	資料 2 点含む	0	22	-1	舟越桂《静かな奇襲》(返却)
令和元	0		5		0	5		
2	0		5		0	5		
3	0		72	資料 4 点含む	0	72		
4	0		14		0	14		
5	0		11		0	11		
6	0		10	資料 2 点含む	0	10		
計	987		1, 423		18	2, 428	23	

美術作品貸出状況

令和6年度は貸出なし

資料の購入等に関する状況

●図書資料

	購 入			受 贈			計
	図 書	図録・目録	館報・紀要	図 書	図録・目録	館報・紀要	
令和元年度まで	5,323	180	6	3,201	21,063	6,180	35,953
令和2年度	13	6	0	137	562	160	878
令和3年度	55	2	0	74	320	160	611
令和4年度	29	1	0	72	261	183	546
令和5年度	40	4	0	35	228	67	374
令和6年度	18	2	0	44	280	168	512
計	5,478	195	6	3,563	22,714	6,918	38,874

●視聴覚資料

	購 入								受 贈				計
	CD	DVD	ビデオ テープ	LD	フィルム	スライド	カセット テープ	CD-R	CD	DVD	CD-R	その他	
令和元年度まで	24	75	245	51	11	16	0	0	95	101	9	64	691
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
令和3年度	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
令和4年度	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
令和5年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
令和6年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計	24	75	245	51	11	16	0	0	98	103	14	64	701

令和6年度新収蔵作品

凡 例

1. この目録には、令和6年度のいわき市立美術館新収蔵作品を収録した。
2. 作品の分類は、平面作品Ⅰ（直接技法に基づくもの）、平面作品Ⅱ（間接技法に基づくもの：版画等）、平面作品Ⅲ（ポスター、写真等）、立体作品、映像・その他。
3. 各作品のデータは以下の通り。

整理番号／作者名(生没年)
 作品名
 制作年
 技法・材質
 寸法(cm)
 サインの位置及び年記
 最初の発表展覧会及び受賞歴
 収蔵の経緯
 登録番号

4. 作家名は分類ごとに日本人作家と外国人作家に大別し、日本人作家は五十音順に、外国人作家は姓のアルファベット順に配列した。
5. 制作年は、作品に明記されているもの、及び制作事情の明確なものに限って記載した。
6. 寸法は、センチメートルを単位として、平面作品では画面の縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行きとした。

【令和6年度 収蔵作品分類】

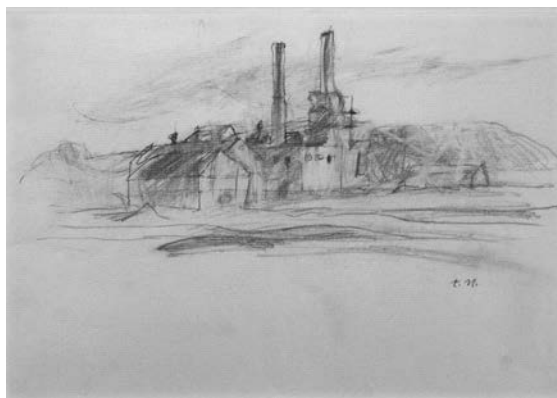
平面作品Ⅰ	6点
平面作品Ⅱ	0点
平面作品Ⅲ	1点
立体作品	1点
映像・その他	0点
美術資料	2点
計	10点

《平面作品Ⅰ》

1. 殿敷侃 TONOSHIKI Tadashi (1942-1992)
 楠木のお好焼風料理法
 Okonomiyaki style cooking method of camphor tree
 1988
 墨、水彩、インク・紙
 54.0×38.0
 受贈 天野紋子
 2024-2



2. 中谷泰 NAKATANI Tai (1909-1993)
 好間風景
 Yoshima
 1984
 鉛筆・紙
 22.8×31.7
 向かって右下) t.n.
 受贈 佐々木吉晴
 2024-3



3. 伊藤知香 ITO Chika (1944-)

衣 i

i

1983

陶

67.8×35.5×0.5

向かって右下) '83 Chika Ito

受贈 佐々木吉晴

2024-1



4. 菱沼儀 HISHINUMA Tadashi (1907-1974)

花

Flower

不詳

油彩・カンヴァス

60.6×50.0

向かって右下) HISHI

受贈 中川素直

2024-4



5. 若松光一郎 WAKAMATSU Koichiro (1914-1995)

霊山

Ryozen

1943

油彩・カンヴァス

38.0×43.0

受贈 中川素直

2024-5



6. 若松光一郎 WAKAMATSU Koichiro (1914-1995)

老農夫

Old farmer

1957

木炭、コンテ・紙

38.0×26.0

左下) mitu57

受贈 中川素直

2024-6



《平面作品Ⅲ》

1. 副田高行 (写真: 石内都) SOEDA Takayuki

(Photo: ISHIUCH Miyako) (1950-)

「ヒロシマ・アピールズ」ポスター 2024

遺品が訴えるもの

Hiroshima Appeals Poster 2024

The Powerful Message of Left-behind Objects
2024

オフセット・紙

103.0×72.8

受贈 新妻秀雄

2024-7



《立体作品》

1. 安藤榮作 ANDO Eisaku (1961-)
宇宙のトルソ
Cosmic Torso
2024
楠
47.0×21.0×12.5
底面) 宇宙のトルソ 安藤榮作 2024
受贈 新妻英正
2024-8



《美術資料》

1. スコットランド アーツ カウンシル
Scottish Arts Council Gallery
「Rosenquist Prints」 展覧会ポスター
Exhibition poster: Rosenquist Prints
1974
スクリーンプリント・紙
75.7×53.0
受贈 西成田育男
2024-9



2. ギャラリー エム (ボーフム)
Galerie m Bochum
「リチャード・セラ 彫刻とデッサン」 展覧会ポスター
Exhibition poster : Richard Serra |
Skulpturen/Zeichnungen
1983
オフセット・紙
75.8×59.3
向かって右下) R. Serra
受贈 西成田育男
2024-10



いわき市立美術館条例 いわき市立美術館管理規則

いわき市立美術館条例

昭和58年12月27日 いわき市条例第58号

(設置)

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため、美術館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4番地の4

(事業)

第3条 いわき市立美術館(以下「美術館」という。)は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、講演会、講習会、映写会等を開催すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第4条 美術館の常設展(美術作品等の常設展示をいう。以下同じ。)を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、美術館の特別展(常設展以外の展示をいう。以下同じ。)と併せて観覧する場合又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する国民の祝日において観覧する場合は、この限りでない。

2 特別展を観覧しようとする者は、別表第2に定める額の範囲内において、市長が定める観覧料を納付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第5条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術作品等の写真撮影、模写又は模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める撮影等料金を納付しなければならない。

(観覧料等の免除)

第6条 市長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、観覧料(常設展に係るものに限る。)又は撮影等料金を免除することができる。

- (1) 外国人留学生が、福島県の実施する外国人留学生文化施設等無料観覧制度に基づき観覧するとき。
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係る事業の用に供するため撮影等をするとき。

(観覧料等の不返還)

第7条 既納の観覧料又は撮影等料金は、返還しない。ただし、市長は、災害その他不可抗力により、観覧又は撮影等を行うことができなくなったときは、既納の観覧料又は撮影等料金を返還することができる。

(入館の制限)

第8条 教育委員会は、美術館に入館しようとする者又は入館している者が次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を制限し、又は館外へ退館させることができる。

- (1) 他人に危害を加え、又は迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は美術作品等を損傷するおそれがあるとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、美術館の管理に支障があると認めるとき。

(賠償責任)

第9条 入館者は、施設、設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の指示するところに従い、その損害を賠償し、又はこれを原状に回復しなければならない。ただし、市長は、相当の理由があると認める場合は、その全部又は一部を免除することができる。

(美術館協議会)

第10条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定に基づき、いわき市立美術館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱する。
- 3 協議会は、委員15人以内で組織する。
- 4 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和59年4月28日から施行する。ただし、第1条から第3条まで、第10条及び第11条の規定は、昭和59年4月1日から施行する。

(略)

附 則(令和5年3月9日いわき市条例第8号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1(第4条関係)

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	220円	170円
高 校 生、高 等 専 門 学 校 生、大 学 生	150円	120円
小 学 生、中 学 生	70円	50円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第2(第4条関係)

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	1,500円	1,200円
高 校 生、高 等 専 門 学 校 生、大 学 生	740円	590円
小 学 生、中 学 生	440円	350円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第3(第5条関係)

区 分		料 金	
写 真 撮 影	モ ノ ク ロ ー ム	1点1回につき	1,650円
	カ ラ ー	1点1回につき	3,300円
模 写、模 造		1点1日につき	2,200円
熟 覧、拓 本		1点1回につき	220円

- 備考
- 1 ^{びょう}屏風は、1双を1点とする。
 - 2 1そろいの卷子(巻物をいう。)は、1巻を1点とする。
 - 3 対幅は、1幅を1点とする。
 - 4 撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

いわき市立美術館管理規則

昭和59年3月31日 いわき市教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、いわき市立美術館条例(昭和58年いわき市条例第58号。以下「条例」という。)の規定に基づき必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 いわき市立美術館(以下「美術館」という。)に、次の課及び係を置く。

庶務課 庶務係

学芸課 学芸係、普及係

(事務分掌)

第3条 課の事務分掌は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 公印の保管に関すること。
- (2) 予算の経理に関すること。
- (3) 美術館の維持管理に関すること。
- (4) 観覧料及び撮影等料金の徴収に関すること。
- (5) 統計に関すること。
- (6) 美術館協議会に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸課の所掌に属しない事務に関すること。

学芸課

- (1) 美術作品等の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術に関する専門的な調査研究に関すること。
- (3) 展覧会、研究会、講演会、映写会等の開催に関すること。
- (4) 美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関すること。
- (5) 美術作品等の利用に関する助言及び指導に関すること。
- (6) 美術作品等の寄贈及び寄託に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸事務に関すること。

(職及び職務)

第4条 美術館に館長、副館長、課に課長、係に係長を置き、必要に応じ、参事、主幹、主任主査、専門学芸員、主査、主任学芸員、事務主任、主事、学芸員、主任運転手及び運転手を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 参事は、上司の命を受け、美術館事務に関する企画及び調整に参画する。
- 4 副館長は、館長の職務遂行を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 主幹は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を掌理する。
- 6 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
- 7 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
- 8 主任主査は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
- 9 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の専門的な事務を処理する。
- 10 主査は、上司の命を受け、美術館の事務の一部を分担処理する。
- 11 主任学芸員は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。
- 12 事務主任は、上司の命を受け、係の事務の一部を分担処理する。
- 13 主事は、上司の命を受け、事務をつかさどる。
- 14 学芸員は、上司の命を受け、専門的な事務を処理する。
- 15 主任運転手は、上司の命を受け、担任の自動車運転の業務を処理する。

16 運転手は、上司の命を受け、自動車運転の業務に従事する。

(休館日)

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げる日とする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その日後のその日に最も近い休日でない日)

(2) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時(入館は、午後4時30分)までとする。ただし、毎年7月及び8月の金曜日については、午前9時30分から午後8時(入館は、午後7時30分)までとする。

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧券の交付)

第7条 条例第4条の規定により、観覧料を納付した者に対して観覧券(第1号様式)を交付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第8条 条例第5条第1項に規定する撮影、模写又は模造等(以下「撮影等」という。)をしようとする者は撮影等許可申請書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、撮影等を許可したときは、撮影等許可書(第3号様式)を交付する。

(観覧料等の減免)

第9条 条例第6条第2号又はいわき市障害者、高齢者及び児童生徒等の利用に係る公の施設の使用料の減免に関する条例(平成13年いわき市条例第56号)第5条第1項の規定により観覧料又は撮影等料金の減免を受けようとするときは、観覧料・撮影等料金減免申請書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項の規定による申請があった場合において、観覧料又は撮影等料金の減免を決定したときは、観覧料・撮影等料金減免通知書(第5号様式)を交付する。

(観覧料等の返還)

第10条 条例第7条の規定により観覧料又は撮影等料金の返還を受けようとする者は、その理由を記載した観覧料・撮影等料金返還申請書(第6号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

(美術館協議会の会長及び副会長)

第11条 条例第10条に規定するいわき市立美術館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長各1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第12条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務処理及び服務)

第13条 美術館における事務処理及び服務については、いわき市教育委員会事務局処務規程(昭和47年いわき市教育委員会訓令第2号)に基づく事務処理及び服務の例による。

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。ただし、第5条から第10条までの規定は、昭和59年4月28日から施行する。

(略)

附 則(平成22年3月31日いわき市教委規則第5号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

第1号様式（第7条関係）

その1

常 設 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取	線	金 額
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館

その2

特 別 展 観 覧 券	(切)	特 別 展 観 覧 券	(切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取	線	金 額 取	線	
いわき市立美術館	この券をもって領収に代えます。	いわき市立美術館		

備考 1 寸法、デザイン等については、その都度定める。
2 観覧券の区分は、一般、高校生・高等専門学校生・大学生及び小学生・中学生とする。

第2号様式（第8条関係）

第2号様式（第8条関係）

撮 影 等 許 可 申 請 書

いわき市教育委員会殿

年 月 日

申 請 者 住所又は所在地

氏名又は名称及び代表者

電 話 ー

注 太枠線のみ記入してください。

第 号 年 月 日許可

美術作品の名称

作者名

点数

日時 年 月 日 時 分から 時 分まで

目的

方法 撮影 模写 模造 熟覧 拓本

料 金	撮 影	モノクローム	点	円	計
		カラー	点	円	
	模 写 ・ 模 造	点	円		
		熟 覧 ・ 拓 本	点		円

館長 副館長 課長 係長 係

第3号様式（第8条関係）

第3号様式（第8条関係）

撮 影 等 許 可 書

殿

いわき市教育委員会

下記のとおり撮影等を許可します。

第 号 年 月 日許可

美術作品の名称	作者名	点数
---------	-----	----

日時 年 月 日 時 分から 時 分まで

目的

方法 撮影 模写 模造 熟覧 拓本

料 金	撮 影	モノクローム	点	円	計
		カラー	点	円	
	模 写 ・ 模 造	点	円		
		熟 覧 ・ 拓 本	点		円

指示事項

第4号様式（第9条関係）

観覧料
撮影等料金

減免申請書

いわき市教育委員会

年 月 日

住所（所在地）
申請者 氏名（名称及び代表者氏名）
電話番号
担当者氏名

注意 太枠の中だけ記入してください。

観覧日時		撮影等日時					
年 月 日	時 分から 時 分まで	年 月 日	時 分から 時 分まで				
区 分	常設展	特別展	撮 影 等				
一 般	人	人	写真撮影 モノクローム 点				
高 校 生	人	人	カ ラ ー 点				
高等専門学校生	人	人	模 写 ・ 模 造 点				
大 学 生	人	人	熟 覧 ・ 拓 本 点				
小 学 生	人	人	計 点				
計	人	人	減免申請の理由				
☐ 減免する。		減免しない理由	納付すべき観覧料等 円				
☐ 減免しない。			減 免 率				
			減免後の観覧料等 円				
			起 案 年 月 日				
		決 裁 年 月 日	施 行 年 月 日				
		館長	副館長	課長	係長	係員	許可番号 第 号

第5号様式（第9条関係）

観覧料
撮影等料金

減免通知書

様

年 月 日

いわき市教育委員会 印

申請年月日		許可番号	
年 月 日	第 号		
観覧日時		撮影等日時	
年 月 日 時 分から 時 分まで		年 月 日 時 分から 時 分まで	
区 分	常設展	特別展	撮 影 等
一 般	人	人	写真撮影 モノクローム 点
高 校 生	人	人	カ ラ ー 点
高等専門学校生	人	人	模 写 ・ 模 造 点
大 学 生	人	人	熟 覧 ・ 拓 本 点
小 学 生	人	人	計 点
計	人	人	減免率
減免率		減免後の観覧料	
減免後の観覧料		減免後の撮影等料金	

第6号様式（第10条関係）

観覧料
撮影等料金

返還申請書

いわき市教育委員会殿

下記のとおり 観覧料
撮影等料金 の返還を受けたいので申請します。

年 月 日

住所又は所在地

氏名又は名称及び代表者

電話 ー

注 太枠線のみ記入してください。

第 号 年 月 日許可

申請理由

既納観覧料等

観覧料 枚 円

撮影料等 枚 円

返還申請金額 円

館長 副館長 課長 係長 係員

事業経過報告

令和7年3月31日現在

展 覧 会 名		開 催 期 間 (日数)	料 金						入 場 者 数									6 年 度 計
			一 般			団 体			一 般			団 体			招待	無料		
			一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中				
常 設 展	あつまれ！彫刻の森 収蔵作家特集：河口龍夫 1/23～4/14	4/2～4/14 12日間	220	150	70	170	120	50	69	7	6	0	0	0	0	31	113	
	ホームカミング ホームカミングー海、街、人 4/17～6/2 モダン・ライフ 6/4～9/29	4/17～9/29 145日間	220	150	70	170	120	50	305	55	18	66	0	0	838	9,647	10,929	
	新しい表現を求めて 1980～90年代のアートシーン 写真とアート 10/1～1/13 「彩」から見る現代美術 1/15～4/20	10/1～3/30 147日間	220	150	70	170	120	50	440	57	11	101	5	1	178	2,631	3,424	
	常 設 展 計 (A) 304日間 ※12/19～12/20：館内メンテナンスによる休館のため、開催期間(日数)には含まない。								814	119	35	167	5	1	1,016	12,309	14,466	
企 画 展	開館40周年記念 秘密の花園 ーいわき市立美術館所蔵品展	4/20～6/2 39日間	500	300	100	400	240	80	967	35	23	125	0	0	246	1,675	3,071	
	フィンランドのライフスタイル ー暮らしを豊かにするデザイン	6/22～8/18 51日間	1,200	800	400	960	640	320	8,630	312	474	184	2	0	1,470	4,651	15,723	
	new born 荒井良二 いつも しらないところへ たび するきぶんだった	9/7～10/20 38日間	1,100	500	300	880	400	240	2,405	122	178	105	1	0	436	2,565	5,812	
	牛腸茂雄 写真展 “生きている”ということの証	11/2～12/15 38日間	800	300	200	640	240	160	770	40	8	62	0	0	148	1,013	2,041	
	ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか＋瀬尾夏美	11/2～12/15 38日間	無 料												2,681	2,681		
	いわき市小・中学生版画展	1/5～1/26 19日間	無 料												2,635	2,635		
	第54回いわき市民美術展覧会 (書の部)	2/7～2/16 9日間	無 料												1,241	1,241		
	(絵画・彫塑の部)	2/21～3/2 9日間	無 料												1,949	1,949		
	(陶芸の部・写真の部)	3/7～3/16 9日間	無 料												1,407	1,407		
	企 画 展 計 (B)								12,772	509	683	476	3	0	2,300	19,817	36,560	
展 覧 会 事 業 計								13,586	628	718	643	8	1	3,316	32,126	51,026		
普 及 事 業 計																4,416		
合 計								13,586	628	718	643	8	1	3,316	32,126	55,442		

令和6年度 普及事業報告

令和7年3月31日現在

項 目	事 業 名	講 師 ・ 助 言 者	日 時	人数
移動美術館	「切り絵をつくろう！」総合教育センターチャレンジホーム	当館学芸員	12月6日	6
小 計				6
講 演 会	現代アートの美術館—いわき市立美術館所蔵品の魅力	布施英利（東京藝術大学教授）	4月28日	40
	美術館のレガシー 40年で見えてきたこと	小泉晋弥（茨城県天心記念五浦美術館館長）	6月2日	40
	開幕記念対談「フィンランドの記憶」	石本藤雄（出品作家、テキスタイルデザイナー、陶芸家）、平井千里馬（スコープ代表）	6月22日	94
	講演会「フィンランドの住まいとデザイン」	和田菜穂子（東京家政大学准教授）	6月29日	42
	アーティストトーク「いつも 知らないところへ たびするきぶんだった」	荒井良二（アーティスト）	10月6日	200
	対談「牛腸茂雄のまなざし」	三浦和人（写真家）、佐藤正子（本展企画者）	11月2日	33
小 計				449
美 術 講 座	「秘密の花園」学芸員、私のイチオシ	当館学芸員	4月29日～6月1日（全7回）	61
	「フィンランドのライフスタイル」展覧会の見どころ	当館学芸員	7月14日	19
	ティーチャーズ・ミュージアム	当館学芸員	8月1日	11
	「牛腸茂雄写真展」展覧会の見どころ	当館学芸員	11月10日	9
小 計				100
ギャラリートーク	常設展ギャラリートーク	当館学芸員	毎週土曜日等（31回）	136
	「ニューアートシーン・イン・いわき小森はるか+瀬尾夏美」アーティスト・トーク	小森はるか+瀬尾夏美（アートユニット）	11月2日	11
	みんなあつまれ！ おしゃべり版画展	当館学芸員	1月25日	5
	団体解説	当館学芸員	通年（24回）	686
小 計				838
ワークショップ	『11歳だったわたしは いわき編』ワークショップ	小森はるか+瀬尾夏美（アートユニット）	7月20日 7月21日 8月10日 8月12日	5
	美術館の自由研究のスヌメ	当館学芸員	8月3日 8月4日	4
	「フィンランドのライフスタイル」光のモビール ヒンメリを作ろう	あだちようこ（ヒンメリ作家）	8月11日	33
	「new born 荒井良二」荒井良二と物語を汲み出す人	荒井良二（アーティスト）、宮本武典（東京藝術大学准教授）	9月14日	16
	『11歳だったわたしは いわき編』ワークショップ報告会	小森はるか+瀬尾夏美（アートユニット）、ワークショップ参加者	12月15日	15
	カーボン紙紙版画でオリジナルカードをつくろう！	当館スタッフ	1月5日～1月26日	748
	わくわくアートスクール 幻の化石大発見！ アートな化石標本箱をつくろう	江本創（現代美術家）	1月18日 1月19日	29
小 計				850
実 技 講 座	「写真家三浦和人さんと一緒にいわきの街を撮ろう！」	三浦和人（写真家）	11月17日	9
小 計				9
公 開 制 作	「new born 荒井良二」荒井良二によるオープニング・ペインティング	荒井良二（アーティスト）	9月7日	200
小 計				200
映 像 鑑 賞 会	映画鑑賞会「アアルト」		7月6日 7月7日	92
	春分の日映画会「ウルフウォーカー」		3月20日	31
小 計				123
コンサート&パフォーマン	「秘密の花園」ピアノ コンサート～楽しくなければ、音楽じゃない	ピアノ（藤原潤子、伊藤直子）	5月5日	38
	「秘密の花園」フラメンコともう一つのスペイン音楽	リベルラス ロハス（フラメンコ・グループ；深谷恵子、鈴木陽子、松平ふみえ、石川子三、松崎康弘（ギタリスト）	5月12日	61
	「秘密の花園」フルート&ギター 同時代の音楽	小沼裕一、松崎康弘、関志路光和（音楽家）	5月26日	56
	春を祝うコンサート&パフォーマンス「尺八とフルートの饗宴」	神永大輔（尺八奏者）、紺野裕子（フルート奏者）、関屋茉莉子（ピアニスト）	1月13日	112
小 計				267
実技講習室の公開	実技講習室の公開		11月8日	1
小 計				1
実習生の受け入れ	職場体験（赤井中、平二中、草野中、平一中）	当館学芸員	9月12日～9月27日（4回）	9
小 計				9
バーチャルミュージアム	「小・中学生版画展プラス版画の力」360°バーチャルミュージアム	布施雅彦（福島高専准教授）	1月5日～1月26日	177
小 計				177
共 催 事 業	飯野公民館「アートの楽しみ方in美術館」	当館学芸員	5月14日～12月3日（全5回）	47
	中央公民館「アートに触れるin美術館2024」	当館学芸員	5月16日～12月5日（全5回）	97
	鹿島公民館「市立美術館を楽しむ」	当館学芸員	5月23日～12月4日（全5回）	84
	中央公民館寿学園（フィンランドのライフスタイル）	当館学芸員	7月3日	50
	草野公民館「街なか散歩で彫刻めぐり」	当館学芸員	10月11日	15
	市内小学校教員を対象とした版画および鑑賞研修会	当館学芸員	10月22日	65
	福島県教育センター自主講座「美術館でアートを楽しむ鑑賞講座」	当館学芸員	11月16日	6
	いわき市立美術館×いわき芸術文化交流館アリオス連携事業『二重のまち／交代地のうたを編む』上映会＋アフタートーク	小森はるか+瀬尾夏美（アートユニット）	12月15日	31
	市美展書の部「審査員による作品解説会」	芳賀二葉（書家）、滝翠嶺（書家）、臺麗子（書家）	2月9日	20
	市美展書の部「石川大澄講演会『書・画と文房具の話』」	石川大澄（書家）	2月9日	44
	市美展書の部「高校生による書道パフォーマンス」	いわき秀英学園書道部、磐城高校書道部、磐城桜が丘高校書道部	2月11日 2月16日	237
	市美展絵画・彫塑の部「招待作家による入選作品批評会」	絵画・彫塑の部招待作家	2月22日	34
	市美展陶芸の部「作品解説」	陶芸の部部会員	3月8日 3月9日 3月15日 3月16日	151
	市美展 陶芸の部「タッチコーナー」	陶芸の部部会員	3月9日 3月16日	130
	市美展写真の部「招待作家による作品解説会」	上遠野真人（招待作家）、増井治（招待作家）	3月9日	21
	デッサン教室	山本伸樹（現代美術家）	毎月2回（24回）	355
小 計				1,387
合 計				4,416

バーチャルミュージアムは現在も公開中であるが、版画展会期中（1/5～1/26）の閲覧者数を人数としてカウントした。

令和6年度美術館費当初予算

(単位：千円)

項 目	金 額
人 件 費	73,846
管 理 費	165,057
施 設 運 営 費	118,859
作 品 購 入 費	0
長 寿 命 化 事 業 費	46,198
事 業 費	68,557
企 画 展 事 業 費	63,396
常 設 展 事 業 費	1,546
教 育 普 及 事 業 費	2,935
調 査 研 究 事 業 費	672
美術品等取得基金繰出金	8
計	307,460

美術館協議会委員

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

	氏 名	職 業（役職名）
委 員	大場 敏宣	一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 会長
委 員	西本 泉	いわき女性の会 元会長
委 員	會川 和美	いわき市文化協会 会長
委 員	鷺 邦明	いわき美術協会 事務局長
委 員	鳥海陽太郎	いわき地域学会 副代表幹事
委 員	大和田勝史	いわき青年会議所 常任理事
委 員	比佐美智子	国際ソロプチミストいわき 会長
委 員	安斉 重夫	美術家
委 員	吉田 重信	美術家
委 員	武藤 眞一	いわき市立美術館友の会 会長
委 員	窪木富士美	いわき市小学校教育研究会図画工作部会 元部長
委 員	中野 康元	いわき市中学校教育研究会美術専門部会 部長
委 員	和田 知典	福島県高等学校教育研究会美術工芸専門部会いわき支部 会員
委 員	鈴木 純子	いわき市子ども会育成会連絡協議会 会計

【博物館法】

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験を有する者の中から当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

美術館職員

令和6年4月1日現在

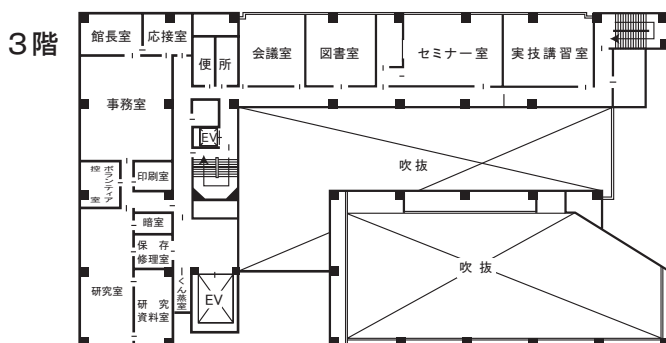
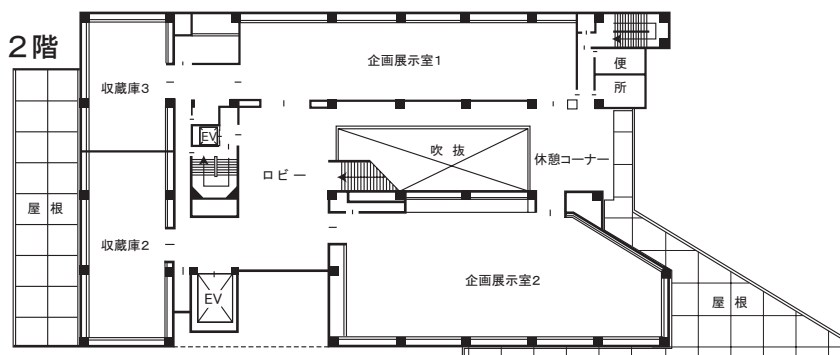
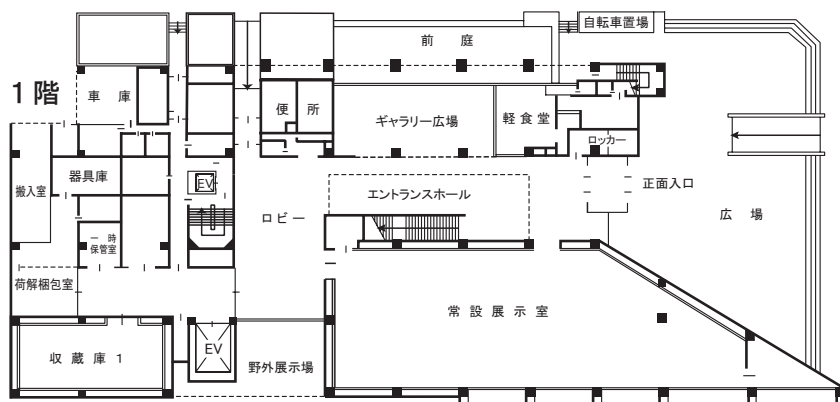
	職 名	氏 名
	館 長 [㊟]	杉浦 友治
	副 館 長 [㊟]	下山田 誠
	副 館 長 [㊟]	秋葉 啓子
《庶務課》	課 長（兼務）	下山田 誠
○ 庶務係	係 長 [㊟]	橋本 武司
	主 査	大須賀美栄
《学芸課》	課 長（兼務）	秋葉 啓子
○ 学芸係	係 長（兼務）	秋葉 啓子
	学 芸 員	徳永 祐樹
	学 芸 員	鈴木 彩乃
○ 普及係	係 長 [㊟]	江尻 英貴
	学 芸 員	伊藤圭一郎
	学 芸 員（再任用）	植田 玲子

美術品選定評価委員会委員

任期 令和6年4月1日～令和8年3月31日

役 職	氏 名	職 業（役職名）
委員長	北郷 悟	秋田公立美術大学 理事長・学長
副委員長	小勝 禮子	京都芸術大学 非常勤講師
委員	大谷 省吾	東京国立近代美術館 副館長
委員	野口 玲一	三菱一号館美術館 上席学芸員
委員	増渕 鏡子	福島県立美術館 副館長心得兼学芸課長

平 面 図



管 理 ・ 運 営 利 用 案 内

●開館時間

午前9時30分～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

7、8月の毎週金曜日は、夜8時まで開館。(展示室への入場は午後7時30分まで)

●休館日

毎週月曜日(ただし月曜日が祝日等の場合は開館し、翌日休館)

年末年始(12月28日～1月4日)

●観覧料

	常 設 展	企 画 展 (その都度定める)
一 般	220円 (170円)	1,500円 (1,200円) 以内
高・高専・大学生	150円 (120円)	740円 (590円) 以内
小・中 学 生	70円 (50円)	440円 (350円) 以内

※ () 内は、20名以上の団体割引料金。

※企画展チケットで常設展もご覧になれます。

●企画展・常設展が無料になる場合

- ・市内在住の65歳以上の方は、企画展・常設展無料
- ・身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方は、企画展・常設展無料
- ・土曜日、日曜日に限り、市内の小学校、中学校、高等学校、専修学校(高等課程)、高等専門学校に在学の方は、企画展・常設展無料
- ・祝日は、常設展無料

●図書室の利用時間

午前9時30分～午後5時

7月、8月の毎週金曜日は午後8時まで

●実技講習室の利用時間

午前9時30分～午後4時45分

7月、8月の毎週金曜日は夜7時45分まで

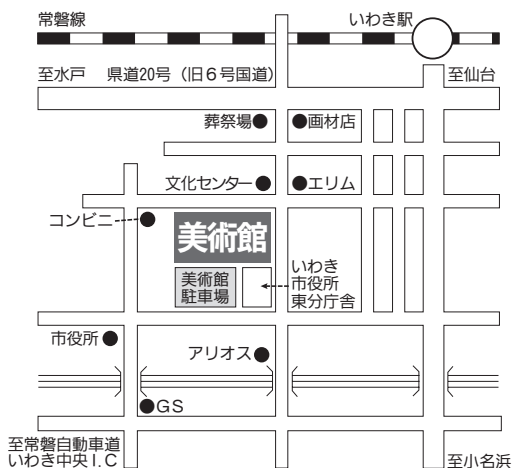
●交 通

J R常磐線、磐越東線いわき駅より徒歩12分

常磐自動車道いわき中央 I Cより10分

駐車場：美術館駐車場、他 いわき市公共駐車場

●地 図



令和6年度
いわき市立美術館年報

編集・発行
いわき市立美術館
〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4